

掘りだそう、自然の力。

Calbee

カルビー株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-3
丸の内トラストタワー本館22階
広報部 TEL.03-5220-6226
<http://www.calbee.co.jp/>

掘りだそう、自然の力。

Calbee



カルビー株式会社

社会・環境報告書

2012 Corporate Citizenship Report
詳細版

この報告書でお伝えしたいこと。

2011年は私たちカルビーグループにとって、忘れられない一年となりました。東証一部上場を果たしたまさにその日に、東日本大震災が発生し、多くのステークホルダーの皆様にご心配とご迷惑をお掛けする結果となりました。2011年度は上場一年目という、大きな責任と、また、震災をきっかけとした多くの気づき、また、その対応に真剣に取り組んだ一年であったと思います。従業員一人ひとりが安全・安心な商品やサービスの提供を基本として、カルビーグループの社会的な役割とは何か、私たちがすべきことは何かを考え、日々の行動に落とし込んでいきました。もちろん、この取り組みにゴールは無く、常に社会の変化を見据え、真の「愛される会社」を目指すために、進化し続けなくてはなりません。この報告書を通して私たちのカルビーらしい取り組みの数々から、その想いやこだわりが皆様に少しでも伝わることを願っております。

掘りだそう、自然の力。

Calbee

企業理念

私たちは、自然の恵みを大切に活かし、おいしさと楽しさを創造して、人々の健やかなくらしに貢献します。



編集方針

カルビーは2007年度から企業の社会的責任 (Corporate Social Responsibility: CSR) にかかわる取り組みをまとめた報告書を発行しています。2012年版の制作にあたっては、昨年度の株式上場、東日本大震災を受け、改めて、カルビーの想いをステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えしようという考えから、詳細版 (WEB・PDF)、ダイジェスト版 (冊子) と分けて発行することにしました。ダイジェスト版では、特にお伝えしたい、カルビーらしい取り組みを掲載しています。詳細版では、カルビーの社会・環境への取り組みを網羅的に掲載しています。

第三者意見

本報告書の信頼性向上を図るため、第三者の方によるご意見を掲載しています。

報告範囲

- 対象期間
2011年度 (2011年4月1日から2012年3月31日まで)。ただし、一部に2011年度よりも前、または2012年度以降の活動報告も含まれています。
- 対象範囲
カルビーを中心に、グループ会社に関する報告も一部含んでいます。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン (2007年版) (2011年版)」
GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第三版」

免責事項

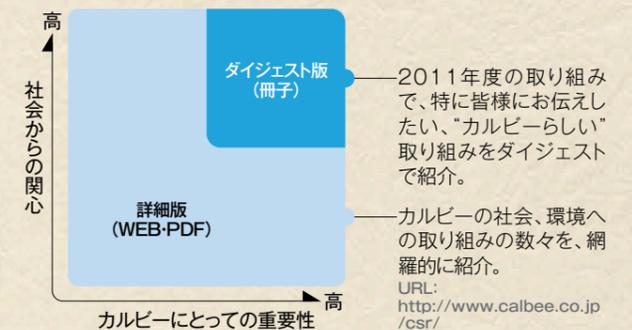
本報告書には、カルビーグループの過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における計画や見通しなどの将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸与件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。また、各報告データは端数処理のために合計が合わない項目があります。読者の皆様には、以上をご了承いただきますようお願いいたします。

発行日について

2012年6月 (前回2011年6月 次回2013年6月予定)

レポートの位置づけ

社会・環境報告書2012年版では、ダイジェスト版、詳細版とその役割を明確に分け、発行しています。



INDEX

この報告書でお伝えしたいこと.....	2
編集方針	
INDEX	
トップメッセージ.....	4
企業理念.....	6
マネジメント体制.....	7
社会への取り組み	
お客様のために.....	10
お取引先様のために.....	18
従業員のために.....	21
地域社会のために.....	26
環境への取り組み	
環境マネジメントの推進.....	30
地球温暖化防止.....	32
資源の有効活用.....	34
第三者からのご意見	36
会社概要	37

すべてのステークホルダーの皆様から 尊敬され、賞賛され、 愛される会社を目指します

上場して一年が経過しました

カルビーが上場企業としての第一歩を踏みだして一年が過ぎました。2011年度は、上場同日に発生した東日本大震災の影響から厳しいスタートとなりましたが、すべてのステークホルダーの皆様を支えられ、2011年度も無事に経営計画を達成することができましたこと、心より深く感謝申し上げます。今後も、カルビーに対して大きな期待を持っていただいていることを日々実感しながら、皆様の期待を裏切らないよう、一層のスピードと競争力を持った経営活動を進めてまいります。

社会貢献活動は重要な使命です

「顧客・取引先から、次に従業員とその家族から、そしてコミュニティから、最後に株主から尊敬され、賞賛され、そして愛される会社になる」……これがカルビーのビジョンであり、CSRの基本姿勢です。私たちは社会貢献活動が企業の持続的な成長に欠くことのできない重要な使命と考え、社会の発展や健康の増進、教育の改善、環境や資源を保護する活動に積極的に参画し、有益な社会事業や福祉に貢献する事業を進めています。

被災地支援や様々なボランティア活動を 推進しています

2011年度も「社会貢献委員会」を中心に、震災遺児の進学を支援する「みちのく未来基金」などの被災地支援をはじめ、子育て支援や環境美化など、地域に密着したさまざまな活動を推進してまいりました。また、地球環境への負荷軽減への取り組みは前年度に引き続き、産業廃棄物の削減や再資源化の促進、CO₂排出量の抑制、水使用量の削減などにとどまらず、農業・工業・商業と連携した大きな環境課題にも着目して、行っています。

継続的成長と高収益体質の実現を 目指して改革を進めています

カルビーは創立以来、「私たちは、自然の恵みを大切に活かし、おいしさ楽しさを創造して、人々の健やかなくらしに貢献します。」という企業理念のもと、原材料であるじゃがいもの栽培や貯蔵技術の開発にはじまり、その調達から製造、店頭での販売に至るまですべての工程において品質管理を徹底し、お客様にとって安心できる高品質の商品・サービスを提供してまいりました。取り組みに

あたっては、一方的な情報発信にとどまらず、お客様の新しいニーズや価値をとらえるとともに、いただいた貴重なご意見やご要望を経営課題と認識して、企業活動に反映させる仕組みを整えています。

これらの取り組みを着実に進化させるために、継続的成長と高収益体質の実現を目指し、イノベーションとコスト・リダクションを経営の二本柱に据え、従業員一人ひとりが「自立的な実行力」を高め、自分の役割と責任を理解し、当事者意識を持って積極的に課題にあたり、さまざまな改革を進めています。ビジネスチャンスを生み出すためのイノベーション（成長戦略）においては、①海外事業の拡大、②新製品開発、③国内シェア拡大、④ペプシコとの連携

強化、⑤L&A (Licensing & Acquisition)、⑥新規事業開発という6つを柱としています。2011年度は、海外での合併会社の設立、Vegips®など新機軸となる商品のさらなる拡張やヘルス&ウェルネス分野への積極参入、新規事業ではアンテナショップを軌道に乗せるなど、新たな展開をはじめています。

今後も、コーポレートメッセージ「掘りだそう、自然の力。」のもと、自然の恵みを生かした製品をもっとお客様にお届けし、企業としての社会的な責任を果たしてまいります。ステークホルダーの皆様におかれましては、一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長 兼 CEO

松本晃

代表取締役社長 兼 COO

伊藤秀二

企業理念

私たちは、自然の恵みを大切に活かし、
おいしさと楽しさを創造して、
人々の健やかなくらしに貢献します。

コーポレートメッセージ

掘りだそう、自然の力。
Calbee

カルビーグループビジョン

顧客・取引先から、次に従業員とその家族から、
そしてコミュニティから、最後に株主から
尊敬され、賞賛され、そして愛される会社になる

カルビーグループ行動規範

1 法令および社会規範等の遵守

●私たちは、国や海外現地の法令、社会規範、社内外の諸規則やルールを守り、高い倫理観に基づいて、社会に信頼される公正で良識ある企業活動に努めます。

2 お客様本位の徹底

●私たちは、何よりもお客様が第一であることを徹底し、お客様から高い信頼と満足を頂けるよう、安全で質の高い製品とサービスの提供に努めます。
●私たちは、VOC(Voice of Customer(お客様の声))を企業活動への確に反映し、新たな価値の創造を目指します。
●私たちは、生活者一人ひとりのニーズにお応えする提案を通じて、食生活の彩を豊かにし「健やかなくらし」に貢献し続けます。

3 従業員の尊重

●私たちは、互いに個人を尊重し、誰もが活き活きと働くことができる職場づくりに努めます。
●私たちは、チームワークを大切に、全員参加で共通目標の達成を目指します。
●私たちは、地域社会で活躍する一人ひとりのプレーヤーとして自らの能力を磨き続けます。

4 公平かつ公正な関係の構築

●私たちは、お客様・取引先・株主を始めとする全ての関係者との間で公平かつ公正な関係維持に努め、企業の社会的責任を果たします。
●私たちは、お得意先との協力を深めて相互に価値を創出し、共利共盛の関係構築します。

5 環境・資源の保全・保護

●私たちは、地球環境の保全に取り組むとともに、省エネルギー活動を推進し地球資源の保護に努めます。
●私たちは、農業・漁業で働く人々やその産地とより深く結びついたネットワークを構築して「自然の恵み」を大切に活かしていきます。

6 地域社会への貢献

●私たちは、自らが地域社会の一員であることを認識し、地域社会との調和や連携に努めるとともに、良き企業市民として積極的に社会貢献活動に取り組みます。
●私たちは、海外で事業を行う際に、その国・地域の文化・習慣を尊重し、国際社会の発展に貢献します。

カルビーのCSR

マネジメント体制

カルビーグループでは、経営の透明化、分権化、並びに業務の簡素化に取り組むとともに、社員一人ひとりにグループ行動規範の浸透・徹底を図っています。



すべてのステークホルダーの信頼と期待に応える体制です。

コーポレート・ガバナンス

カルビーは、「自然の恵みを大切に活かし、おいしさと楽しさを創造して、人々の健やかなくらしに貢献します。」という企業理念のもと、すべてのステークホルダーの信頼と期待に応え、企業価値の向上を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本としています。

この基本的な考え方にに基づき、経営の透明性、効率性を高め、内部統制の仕組み、コンプライアンス体制の充実を図るべく、コーポレート・ガバナンスの強化・充実に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制

当社では、株主総会を最高意思決定機関とし、執行役員による業務執行、執行状況を監督する取締役会、取締役会の職務執行を監視・監査する監査役会を置いています。

取締役会・役員体制

当社の取締役会は独立性の高い社外取締役5名を含む計7名で構成され、原則として毎月1回定期開催し、法定事項の決議、重要な経営方針・戦略の策定および決定、業務執行の監督等を行っています。社外取締役はいずれも経営者としての豊富な経験や高い見識を持ち、独立した立場からの監督機能として役割を果たしています。

また業務執行は、執行役員22名を選任し権限委譲した組織運営を行い、迅速な意思決定と業務執行責任の明確化を可能とする体制作りを推進しています。尚、執行役員のうち、特に委嘱される業務が重要かつ広範にわたり、従業員身分を有しない執行役員を上級執行役員としています。

2011年度において、全取締役の取締役会への出席率は89%でした。

監査役会・監査役

当社は会社法関連法令に基づく監査役会設置会社制を採用しています。当社の監査役会は、社外監査役3名を含む計4名で構成され、透明性を確保するとともに、当社の経営に対する監視・監査機能を果たしています。

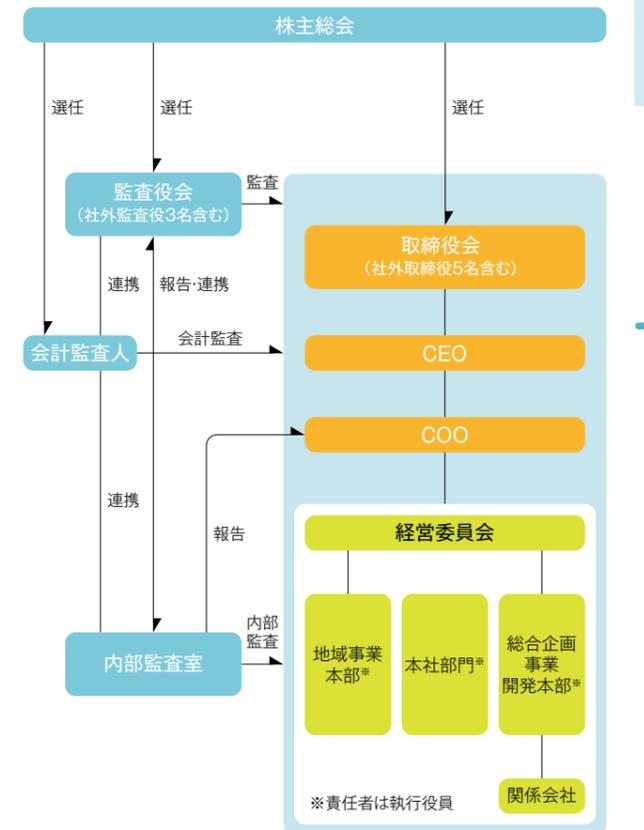


経営委員会

原則として毎月2回、上級執行役員7名と執行役員2名を定例メンバーとして経営委員会を開催し、業務執行の状況と課題の検証、重要案件の事前討議を行っています。

コーポレート・ガバナンス体制図

株主総会を最高意思決定機関とし、取締役会、監査役会、執行役員による業務執行を基本に、コーポレート・ガバナンス体制を構築しています。



内部統制

カルビーグループは金融商品取引法の施行に伴う「内部統制報告制度」への対応として、「内部統制委員会」を設置し、内部統制の構築・評価を進めています。

また、会社法に基づく「内部統制システムの基本方針」を取締役に於いて決議し、各種規程類の整備やリスク管理状況の確認を実施しています。

マネジメント体制



株式上場に伴い、上場企業としての体制を整えました。

コンプライアンス・リスク管理体制の強化

カルビーグループは、法令や社会的倫理を遵守し、また法令違反を含めた事業上のリスクを把握して予防策を講じていくために、2007年にグループ共通の「コンプライアンス・リスク管理規程」を制定し、「コンプライアンス・リスク対策会議」のもとグループ全体での体制強化を進めています。

2011年3月11日の上場を機に、想定される高度なリスクに対応していくため、外部有識者を委員長とする「コンプライアンス・リスク諮問委員会」(6名中3名が社外)を新設し、執行部門におけるリスクの予防や対応等について審議助言を行う体制に変更しました。さらに、推進の実行性を高めるために、既設の「グループ倫理・リスク管理推進委員会」を「コンプライアンス・リスク対策会議」に改め、リスクの未然防止や発生した場合のあらゆる対応力の強化を図りました。

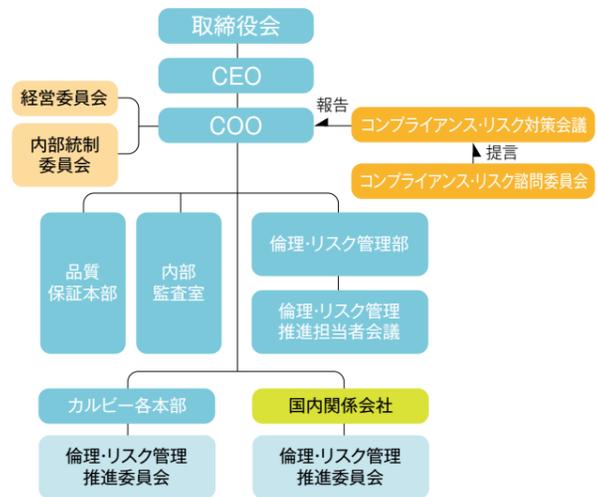
また、2011年3月の東日本大震災の教訓をベースに、危機管理体制整備のプロジェクトを発足し、BCP体制の構築に向け、基幹組織(生産工場や本社部門)としての対応強化を図っています。

諮問委員会の設置

2011年3月の株式上場にともない、カルビーのコンプライアンスの透明性・客観性を高めるために、「コンプライアンス・リスク諮問委員会」を設置しました。

社外の弁護士や有識者3名を委員会に加え、社長以下社内役員を加えた計6名の新体制で、コンプライアンスの取り組みを強化・推進し、上場企業としての責任を果たしていきます。

コンプライアンス・リスク体制組織図

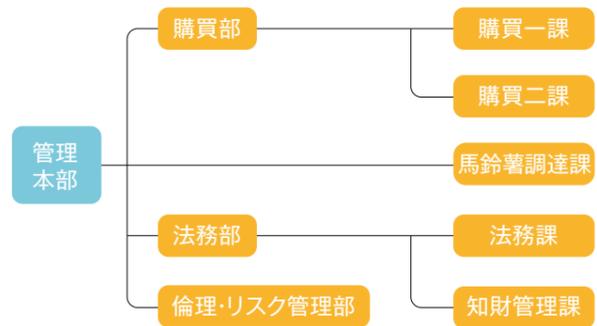


管理本部の組織変更

カルビーでは、株式上場にあたり、株主や機関投資家対応、法律改正、契約、特許、知財の取り扱いなどについて体制を整えるために、管理本部を再構築しました。

商標権等の知的財産管理を強化するため、法務部内に知財管理課を独立させ、倫理・リスク管理部とともに、コンプライアンス推進体制の整備を行っています。また、インサイダー取引の防止など、上場にともない想定されるリスクに関する対応にも取り組んでいます。

新管理本部体制



TOPICS

インサイダー取引の防止

1990年に従業員持株会を発足してから21年目の上場となりました。上場を機に、従業員に自社株を持つ意義や、その重要性、またリスクを再認識してもらうために勉強会を開催しています。なかでもインサイダー取引は、上場企業の従業員として最低限知っておかなくてはならないことであり、株式課が中心となって啓発活動を行っています。2011年3月の株式上場時に制定された「インサイダー取引防止規程」を2012年1月に改定し、「タウンホール・ミーティング」(P22参照)において24カ所の事業所で説明し、その周知に努めました。



リスクマネジメント

カルビーグループでは、企業を取り巻く多様な経営リスクに対応するため、2007年に「危機管理規程」を制定し、内部統制システムを構築する過程で各事業本部・グループ会社の経営リスクの把握と評価作業を行っています。特に製品の安全性や原材料の調達に関するリスクには、品質保証本部が中心となって予防策を講じるとともに、迅速な対応ができる体制を整えています。また、年に1回「法令遵守総点検」を各事業本部、関係会社において実施しています。これは、事業運営に関する点検事項を約400項目にわたってチェックするものです。今後も事前にリスクの芽を摘む未然防止、万一の被害を最小限に抑え、迅速な復旧を図る体制作りを推進していきます。

事業継続計画(BCP)の策定

カルビーグループでは、2010年度より「危機管理体制整備のプロジェクト」を立ち上げています。その中で、食品製造業としての社会的責任の観点から食品供給に支障が生じないようにするため、毒物混入、不祥事、地震等が発生した際の行動計画を策定しました。

さらに、2011年3月に発生した東日本大震災を教訓として、前述の行動計画をベースに、首都直下型地震を想定した本社機能の停止を防ぐべく事業継続計画(BCP)を策定しました。

あわせて、従業員・家族の生命の安全を最優先とした安否確認体制の再構築、全事業所における防災備蓄品の整備、その他被災地域への貢献等についても、実施・推進をはかっています。

反社会的勢力への対応

カルビーグループでは、反社会的勢力との関係遮断とその対応を「グループ行動指針」に明記し、徹底をはかり、2007年度からは各事業所に「不当要求防止責任者」を選任しています。

2010年度よりグループのすべての取引先に対し、反社会的勢力排除条項を盛り込んだ契約・覚書の締結を進め、公平かつ公正な関係構築に努めています。

また、2011年に施行された暴力団排除条例を受け、取引先も含め、より一層の反社会的勢力との関係根絶に向けての取り組みを推進しています。

コンプライアンス

カルビーグループは、法令や社会規範の遵守こそ事業活動を支える根幹と考え、2006年に「グループ行動規範」と「グループ行動指針」を制定し、代表取締役社長兼COOを議長とする「コンプライアンス・リスク対策会議」のもと、定期的に施策の点検・見直しを行っています。

2010年度は「倫理・リスク関連情報」のメール配信(月2回)や、社内報へのコンプライアンス重点課題の連続掲載など、継続的にコンプライアンスに対する意識の浸透を図る取り組みを行いました。また、各種勉強会等も開催し、グループを含め延べ3,000人以上が参加しました。

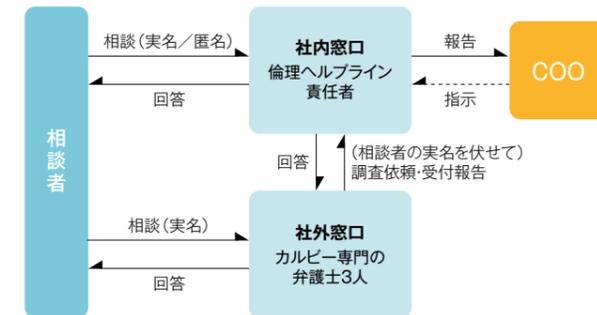
2011年度は、法令改正やその時々々の課題に連動させた「法律知恵袋」の発信を管理者向けに開始するとともに、「パワハラ防止」研修をグループ全管理者(約550名)に行い、マネジメントスキル強化をはかりました。「倫理・リスク関連情報」配信(月1回)と社内報への「倫理・リスク管理部便り」の掲載(毎月)は継続しています。

また、2005年から不定期に行っていた「グループコンプライアンスアンケート」を毎年実施に変更することにより、事業所・関係会社単位への課題のフィードバックやその改善対策の共有化を確実にし、継続的に改善の進捗が追えるように改善しました。

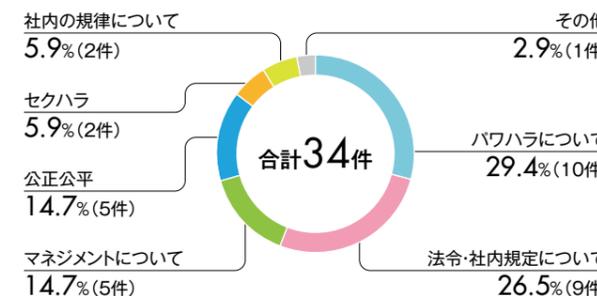
内部通報窓口の設置

カルビーグループでは、行動規範や行動指針に抵触する行為の未然防止や早期発見・解決を図るために、全従業員からの内部通報・相談の窓口として「倫理ヘルプライン」を2006年に社内外に設け運用しています。直近1年間*で、社内外の窓口に計34件の通報がありました。尚、それぞれの通報に対して、通報者が不利益を被ることがないよう安心して通報できる体制を整えています。

倫理ヘルプライン対応フロー

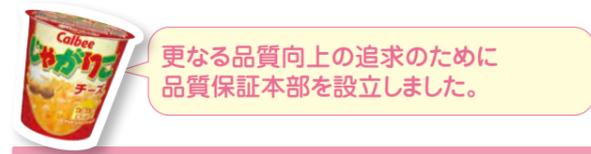


相談件数の内訳(2011年度)



お客様のために

カルビーグループは、お客様にとって安全で安心できる高品質の製品・サービスを提供するための取り組みを続けています。一方的な情報発信にとどまらず、双方向のコミュニケーションに努め、貴重なご意見やご要望を企業活動に反映させる仕組みを整えています。



更なる品質向上の追求のために
品質保証本部を設立しました。

品質保証体制の推進

カルビーはお客様に安全で安心していただける製品を提供し続けるために、2011年10月に品質保証本部を設立し、カルビーグループの品質に関わる責任と権限のすべてを持たせ、シンプルな組織にしました。

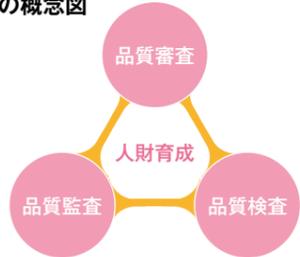
守るべきものはお客様の安全と安心とし、それに影響を与えるものはリスクとして捉え、重大不適合として以下のように定義しています。

- ① 健康被害の恐れがあるもの
- ② 法令違反のもの
- ③ お客様の信頼を失う恐れのあるもの

これらの不適合を発生させないために、品質保証本部では、品質保証に関わる社内外の組織や部門のビジネスパートナーとして協働することを決意しました。

品質保証本部には、品質審査部と品質監査部を設置しました。品質審査部は、不適合のリスクを回避するための規格設計と審査を担い、品質監査部は、製品を規格通りに生産するための監査と改善支援を担います。この二つに加え、工場での検査やお客様の声、官能検査により、審査と監査の仕組みの有効性確認を継続的に行っています。

品質保証体制の概念図



品質保証体制



品質保証本部各部の機能

品質審査部は、安全・安心な製品が工場生産できるよう、原材料の安全性審査、商品規格審査、パッケージ表示等の法令への適合審査を行います。品質審査部では、以下の3つを新体制での運営課題とし、より迅速なリスク回避を行っています。

- ① チェック機能の強化
- ② 新規事業のスムーズな立上げ支援
- ③ 法規制に対応したフレーム作り

品質監査部は、品質審査によって決められたルールや規格どおりに原料や製品が生産されているかの監査を行います。問題があった場合は改善支援をし、さらに適切に改善されたかのフォローアップを行います。これらを継続的に行うことにより、リスクを低減し、より安全・安心な製品を提供していきます。品質監査部では以下の3つを新体制での運営課題とし、重大不適合の防止に努めます。

- ① 重大不適合の再発防止の徹底
- ② 重大不適合の未然防止
- ③ 現場とともに改善

また2004年にISO9001を統合認証取得しました。品質に深く関わる関係部署を中心にISOに基づいた活動を行い、品質保証の取り組みの継続的改善と重大不適合の歯止めを行っています。

品質管理フロー



- | | | | |
|---|---|---|---|
| 原材料の安全性審査 | パッケージ等の法令適合審査 | 原料・製品工場の監査 | 品質検査 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● アレルゲン ● 遺伝子組み換え ● 食品添加物 ● 残留農薬 | <ul style="list-style-type: none"> ● JAS法 ● 食品衛生法 ● 景品表示法 ● 栄養成分表示(健康増進法) | <ul style="list-style-type: none"> ● 食品衛生標準 ● ISO9001 ● 5S | <ul style="list-style-type: none"> ● お客様の声 ● 官能検査 ● 製品検査 |

新製品開発時の品質管理体制

お客様の立場に立った安全・安心な製品を提供するため、新製品開発時には原料・製品の良否判断基準である品質規格と、製造工程管理上の指針となる品質基準を設定し、データベースで管理しています。また設計段階でのミスを出さないよう、開発プロセスやパッケージの表示をチェックする品質アセスメントを品質審査部が中心になって実施しています。

このほか、原材料サプライヤーと共同でリスクが発生しないように、アセスメントを実施しています。



お客様への積極的な
情報開示を行っています。

お客様への情報開示

製造工程における情報開示

食品の安全・安心に対する消費者のニーズはますます高まっており、食品の使用材料や原産地までも考慮して商品が選ばれています。カルビーは製菓業界としては初めて、1973年に商品パッケージに製造年月日の印字を開始し、お客様に安心してカルビーの商品を召し上がっていただけるよう、積極的な情報開示の取り組みを進めてきました。現在では賞味期限や製造所固有記号、シリアルナンバー、製造ライン、製造時刻を表記しており、正しい情報が記載されているかを品質審査部が法律に基づき厳密に管理しています。



原材料における情報開示

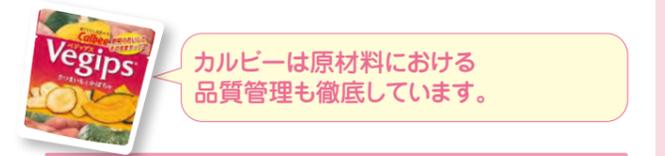
主なポテトチップス商品では、商品パッケージに記載されている製造年月日と製造所固有記号をウェブサイト上に入力すると、じゃがいもの生産者や生産地区、そして生産工場がわかる「じゃがいも丸ごと! プロフィール」を公開しています。

また、サイト上で生産者の声も紹介しており、よりご安心いただけるような情報開示に取り組んでいます。



「じゃがいも丸ごと! プロフィール」

生産者の声



カルビーは原材料における
品質管理も徹底しています。

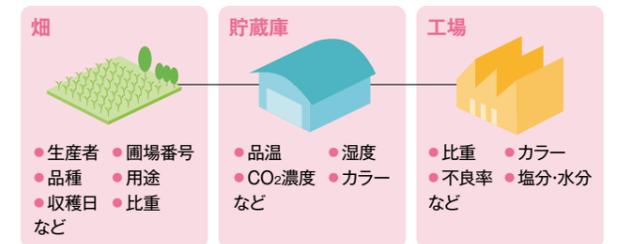
原材料の品質管理

お客様に常に変わらぬ高品質のポテトチップスを提供するために、カルビーでは、原料であるじゃがいもの品質を畑と貯蔵庫、工場の各工程で決められた項目の検査を行い、基準に合格したじゃがいもだけを使用しています。現在は、これら品質履歴や品質検査結果の情報をじゃがいものコンテナ単位でデータベースに入力・集積して一元管理する、独自の品質管理システムを確立し運用しています。この品質管理システムは、「トレーサビリティシステム」の機能も果たし、工場での製造品質等の使用結果はじゃがいも生産者へ速やかにフィードバックされ、その情報を翌年の栽培の改善に生かしています。



じゃがいものコンテナと固有の情報を記したラベル

畑・貯蔵庫・工場での品質検査項目



お客様のために



契約農家様とのパートナーシップで安全・安心を守ります。

生産者と連携した品質改善

ポテトチップスの原料となるじゃがいもに傷、打撲、緑化および内部障害などの不良箇所が発生することがあります。じゃがいもの不良箇所は、加工時に取り除く必要があり、工数やロスの発生、場合によっては、お客様からのご指摘につながることもあります。このため、不良箇所のないじゃがいもが求められます。この不良箇所が発生する原因は、①ほ場及び貯蔵、②気象条件、③病気の発生などがあります。

これら不良箇所を削減するため、カルビーポテトでは、5年前から気象条件など、さまざまな情報を数値化し、栽培作業の改善につなげ、収集したデータとじゃがいもの品質との関係を明らかにしてきました。そして、2010年度には、生産者の皆さんとこのデータの共有化を図り、事前に作業内容を確認し、ずれが生じていた場合はその場で修正することが可能となりました。このような活動を「生産者による品質の自主保全活動」と呼んでいます。この活動により、従来は結果論であった品質が、途中経過で改善できるようになりました。特に、じゃがいも緑化の改善に成果が上がり、2009年度のトヨシロ(じゃがいもの品種)の緑化発生率の平均が4.0%であったのに対して、2011年度は2.02%と半分に減少しました。

貯蔵プロセスにおける品質改善

年間を通じてポテトチップスを安定供給するために、北海道の収穫が終わる10月中旬から、翌5月下旬に九州で収穫がはじまるまでの間、じゃがいもを貯蔵します。じゃがいもは元来、次の世代に子孫を残すための繁殖器官であるため、ポテトチップス用のじゃがいもは春になると貯蔵庫(貯蔵温度8~12℃)で発芽します。芽が伸びたじゃがいもは、加工前に人手により芽を取る必要があり、多大な労力とロスを生みます。そこで、古くから言われていた「じゃがいもとりんごを一緒におくと、じゃがいもから芽が出なくなる」ということを応用し、2008年試験的にエチレン処理を実施したところ、発芽を抑えることに成功しました。現在では、発芽する3月以降、エチレン処理を施し、発芽によるロス削減や芽に起因するお客様からのご指摘の低減に取り組んでいます。



エチレン処理したじゃがいも



そのまま貯蔵



アレルギーリスクを減らすための取り組みを徹底しています。

食品アレルギーへの対応

カルビーグループでは、食品アレルギーへの配慮を重要な課題の一つと考えています。2006年に、研究開発部門、品質保証部門、生産管理部門及びお客様相談室など、社内の関連部署を集めて「アレルギー対策プロジェクト」を発足させました。モデル工場を設定して、アレルギーリスクを減らす清掃方法や設備改善などを研究し、アレルギー対策を含めた「清掃基準書」を作成しました。この基準書に沿った清掃を、2007年から全国工場で行っています。基準書通りに清掃ができているか確認したり、作業教育も実施しています。

さらに、厚生労働省が表示を定めた特定原材料7品目はもちろん、それに準ずる18品目についてもすべてパッケージに表示しており、特定原材料7品目のコンタミネーション(混入)についても注意喚起表示を行っています。お客様一人ひとりの具体的なアレルギーに関する質問などを個別に受け付ける体制も整えています。

※2009年9月1日より、厚生労働省で行っていた食品表示等に関する業務は消費者庁へ移管されました。

TOPICS

トランス脂肪酸低減への取り組み

株式会社セブン-イレブン・ジャパン様に焼きたてのパンを供給する、専用のパン製造工場であるガーデンベーカリーとタワーベーカリーは、継続的にトランス脂肪酸の低減に努めています。トランス脂肪酸は、マーガリンやショートニングなどの加工油脂に含まれ、摂り過ぎると血液中の悪玉コレステロールが増えて善玉コレステロールを減らす働きがあるため、冠動脈性心疾患などのリスクを高めるといわれています。

生地を製造するタワーベーカリーではセブン-イレブン・ジャパン様とともに、2005年より、練り込み油脂、クリームを低トランス化された専用の原材料に切り替えるなどの取り組みを行っています。「いちごジャム&マーガリン」では2005年に100gあたり平均1.86gあったトランス脂肪酸を2007年には平均0.18gまで低減しました。

今後もさらなる低減を目指して「おいしさと健康」を追求した商品開発に積極的に取り組んでいきます。



いちごジャム&マーガリン

※セブン-イレブン・ジャパンホームページより引用。
http://www.sej.co.jp/products/safety01.html



品質を守る最後の砦は“人材”です。

品質を守る人材育成

従業員一人ひとりが品質管理に対する正しい知識と、安全・安心こそが最優先されるという意識を持つことが、品質管理においては欠かせないポイントです。

カルビーグループは全製造工場を対象に、品質に関する教育を実施しています。全社標準の教育プランを策定し、工場ごとの知識・意識のバラつきをなくし、人材の流動時にも同じ技能で仕事ができるようにしています。どの工場においても、同じ品質の製品を生産する仕組みを構築することが重要です。

カルビーグループでは、入社5年目で班長になれるような人材に育てもらうために、人材育成プランを明確にし、職場管理ができる人材を増やしていきます。



継続的な品質向上の仕組みの構築に全社をあげて取り組んでいます。

品質向上へ向けた全社での取り組み

異物混入や印字不良などの防止に取り組む「消費者クレーム撲滅キャンペーン」を2001年度から継続しています。これは2000年8月から2001年6月にかけて発生した異物混入事故を教訓に、安全安心徹底への決意を忘れないようにと始め、毎年6月から8月にかけて全社で実施しています。

カルビーグループは2011年3月11日、東京証券取引所市場第一部に上場し、上場企業として新たな一歩を踏み出しました。上場企業として、よりいっそう法令を遵守し、異物混入などの事故を二度と発生させないようにしてはなりません。

2011年度にはキャンペーン期間だけでなく、年間を通してクレームを改善した事業所を表彰しました。また重大不適合の原因対策支援、過去3年間の是正内容のフォローアップを行いました。

今後更なる品質向上を実現するために全社で取り組んでいきます。



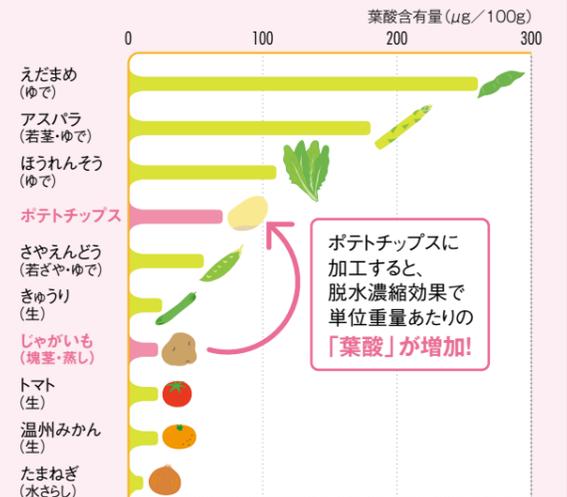
消費者クレーム撲滅キャンペーン

TOPICS

ポテトチップスからビタミンを摂る

カルビーの研究部は2011年、日本食品科学工学会第58回大会において、金沢大学、株式会社エスアールエル、富山大学と共同で、ポテトチップスに含まれる葉酸やその他ビタミンB群のヒトへの吸収について発表しました。研究の結果より、カルビー商品の「堅あげポテト」を摂取することで、血液中の葉酸、ビタミンB6が増えることを証明しました。葉酸は動脈硬化の原因にもなる「ホモシステイン」の減少に効果があり、ポテトチップスの適度な摂取は健康によいということが分かります。

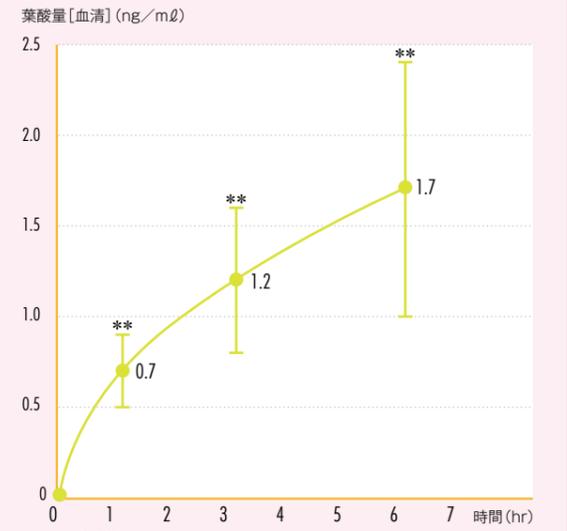
じゃがいもにも「葉酸」は含まれています



ポテトチップスに加工すると、脱水濃縮効果で単位重量あたりの「葉酸」が増加!

※「日本食品標準成分表2010」より
※1μg(マイクログラム)=100万分の1g

堅あげポテト摂取後の血液中葉酸量の変化



※*: p<0.005
※葉酸はビタミンB群に含まれる水溶性ビタミンです。赤血球の形成を助けたり、胎児の正常な発育に寄与する栄養素です。

お客様のために



お客様の声を何よりも大切に、
お客様満足度向上に努めています。

全件対応のお客様相談室

カルビーでは、お客様のご意見、ご指摘、ご要望、ご質問を、重要な経営資源ととらえ、全国7地域に「お客様対応窓口」を設置しています。

2011年度は『お客様本位の経営に貢献する』というスローガンのもと、お客様との接点をより充実させる取り組みを展開しました。主に①ご指摘対応強化②ご意見、ご要望の真因追究③評価の向上④対応支援活動を柱に、お客様満足度の向上を目指し取り組みました。

また、お客様相談室に寄せられるお客様の声を社内で共有するために、2010年度までは社内イントラネットに掲載していましたが、2011年度はお客様相談室の週報を全従業員に配信しています。

お客様の声を社内で共有するとともに、ご指摘に関しては迅速に対応し、必要があれば直接お伺いし、ご説明させていただいています。例えご指摘があっても、その後の対応で信頼関係を構築し、さらなるカルビーファンになってもらえるよう、誠心誠意対応しています。



お客様相談室(本社)

お客様相談室活動方針

お客様本位の経営に貢献する

カルビーの事業活動の考え方、活動の仕方をお客様本位の活動とするため、顧客接点の充実を図り、社員の経営理念の理解を深めるように情報を発信し続ける

1 ご指摘対応強化

2 ご意見、ご要望の真因追究

3 お客様評価の向上

4 対応支援活動

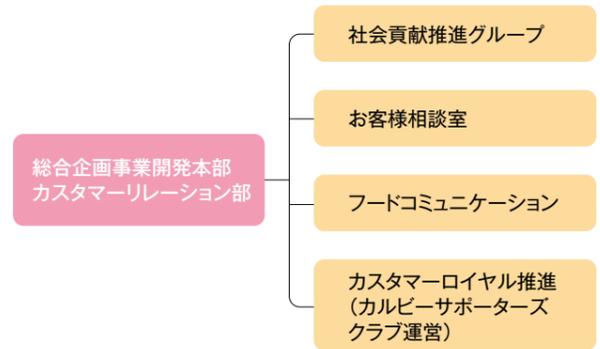
お客様の信頼をより高めるために

さらなる顧客満足のため、2011年度に組織変更を行い、「カルビーファンを増やしそのロイヤリティをアップする」をミッションとした「カスタマーリレーション部」を創設し、総合企画事業開発本部に組み込みました。お客様相談室もこのカスタマーリレーション部に属し、カスタマーリレーションの中心である「カルビーのファン作り」の部署として重要な役割・権限を担うことになりました。この組織変更により、より一層のお客様との信頼関係の構築が可能となりました。

また、各地域に配属されたお客様相談室長に権限を持たせ、地域のすべてのお客様からのご要望に対応します。

ご指摘により、弊社にマイナスの感情を抱かれてしまったお客様にも、変わらぬご愛顧をいただけるよう、「感動の対応」を目指し、取り組んでいきます。

カスタマーリレーション部組織



電話モニタリング研修の実施

お客様の声を実際に聞いて、その重要さを従業員に知ってもらうために、電話モニタリング研修を行いました。他部署の従業員がお客様相談室でお客様からのお問い合わせに実際に対応しています。この取り組みは、各地域の相談室長から、商品担当、総務担当へと広がっています。今後は全従業員がこの研修を通して、お客様のお声を直接聞くことで、お客様満足とは何か、これからのカルビーに何が必要かを感じてもらい、それが経営理念のより深い理解につながればと思っています。

お客様に安心をお届けするための取り組み

お客様相談室では、お客様から寄せられる疑問に迅速にお応えできるよう、定期的に勉強会を開催し、環境や、安全・安心への知識を吸収しています。

2011年度は震災の影響により、食材の品質や安全・安心に関するご質問が増えました。常に正確な情報をご提供し、お客様にご安心いただけるよう、正しい知識を身につけ業務にあたっています。

お客様の声を社内で共有する仕組み

お客様からいただいたご要望やご指摘は直ちに全社で共有される仕組みを整えています。

お客様からのご要望に関しては、週1回開催されるVOC※ミーティングにおいて、課題化できるかどうかを検討し、課題化が可能なものに関しては全社を挙げてのプロジェクトとして取り組みます。また、深刻なご指摘に関しましては、品質保証本部が主体となり、全国の品質責任者を集め会議を開催、その対応にあたります。

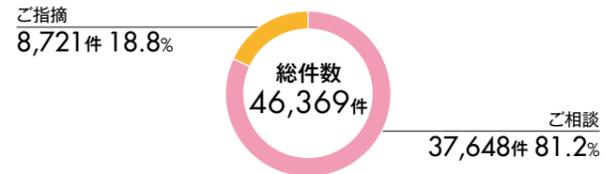
また、お客様に提出する報告書に関しても、全工場の責任者に回され、対応に間違いがないか、どのような対応を取ったのかを共有し、全工場・部署にて改善にあたっています。

※ Voice of Customer

ご指摘対応フロー



お客様からの相談件数別内訳 2011年4月1日~2012年3月31日



お客様からのご意見・ご要望への対応

ポテトチップス フレンチサラダなど「近くに売っていないお店がない」というご不満のお声をいただき、お店に行かなくてもご購入いただけるように、ウェブサイト「カルビーオンラインショップ」での販売を行っています。



ウェブサイト「カルビーオンラインショップ」の画面

ご指摘への対応

ご指摘をいただいたお客様には、ご指摘内容の原因を究明した報告書を実際にお持ちし、説明に伺っています。これはお客様から受け取った疑問に対して説明のつかないグレーゾーンの部分について、取り組みなどをきちんと説明するのが大切であると認識しているからです。ご指摘対応後のお客様アンケートの中でも「今まで以上に買ってくれる」という評価をいただいたお客様には、弊社の取り組みを納得していただけたと考えています。

2011年度は、8,700件のご指摘のうち、アンケート回収率は26%の2,200件で、さらにそのうち**372件**が、「今まで以上に買う」という評価でした。

「今まで以上に買う」件数の推移

年度	2009	2010	2011
件数	184	391	372
回収率(%)	30.2	29.9	26.2



お客様の声を受けて
改善しました。

お客様のニーズを商品開発に

商品作りのなかでもっとも重視しているのが「お客様の声」です。お客様相談室にお寄せいただく声や、発売前の商品のコンセプトや試作品を評価していただくモニター調査のご意見を、商品作りに反映させています。収集したお客様や商品に関する情報は関係部門に速やかに伝えることで、商品・サービスの開発・改善などにつなげています。

既存商品については、そのブランドのイメージや特長、世界観を守りながら、お客様の高齢化や健康志向の高まりを視野に入れて「今カルビーに求められている商品」を追求しています。



お客様からご好評のお声が多く定番化した「ポテトチップス しおとごま油風味」(左)とカルビーオンラインショップでの販売を開始した「じゃがポックル」(右)

お客様のために



お客様との距離が近いのがカルビーの強みです。

お客様との双方向コミュニケーション

ウェブサイト上にさまざまなコンテンツを用意して、お客様とのコミュニケーションを深めています。例えば会員制コンテンツ「マイページ」(会員数:2012年3月現在約36万人)内では、自分専用の畑でじゃがいもを栽培してカルビーに納品する「じゃがいも農場」や、栽培したじゃがいもの貯蔵から商品化までを疑似体験できる「ポテトチップス工場」などを展開しています。



カルビーコミュニティサイト「カルビレッジ」

マイページプレミアム「カルビーサポーターズクラブ」を運営

カルビーサポーターズクラブとは「マイページ」を飛び出し、会員の皆さんとカルビーがつながるプレミアムな組織です。

※会員登録は20歳以上の方とさせていただきます。



カルサポとは?
http://www.calbee.co.jp/calsuppo_about/

カルビーサポーターズクラブは2004年12月に設立し、お客様と数多くのコミュニケーションを重ねてまいりました。2011年4月より、カルビーグループビジョンの“顧客に愛される会社になる”を担い、具現化するクラブ運営を行っています。

普段のコミュニケーションは「マイページ」内にあるカルビー

2011年実施の活動



カルサポインタビュー



カルビーをより良くする委員会



初のオフィス見学「オフィスツアーin本社」



カルビー契約農場での収穫体験

じゃがりこファンによるウェブサイト上の学校「それいけ!じゃがり校」

「それいけ!じゃがり校」は、じゃがりこを愛する人たちが集まったファンサイトです。難関の入学試験に合格した“生徒”たちが、新商品を開発したり、カルビーの担当者と実際に触れ合う「リアル生徒会」を開くなど、双方向コミュニケーションを図っています。



カルビーホームページ「それいけ!じゃがり校」
<http://www.calbee.co.jp/jagarico-web/open-campus/>



じゃがり校生のアイデアから生まれた「じゃがりこ えだ豆チーズ」。発売を記念した「じゃがり校新聞第4号」はじゃがりこサイト内の「それいけ!じゃがり校オープンキャンパス」に掲載されています

サポーターズクラブ会員限定のウェブサイトですが、2011年度も契約農家での収穫体験、インタビューや委員会活動、工場見学、オフィス見学など、実際に参加できるさまざまなイベントを開催しました。

お客様のお声を積極的にいただき、より多くの皆さんとコミュニケーションを深め、愛されるクラブを目指しています。



カルビーサポーターズクラブ会員限定ウェブサイトTOP

カルビーを縦横無尽に綴る「スタッフブログ」
<http://calsuppo.calbee.jp/blog/>

平日毎日更新中!
どなたでもご覧いただけます!



携帯・スマホの方はカルビーモバイルサイトTOPページより、こちらのバナーからどうぞ!

TOPICS

お客様との接点を増やす取り組み～カルビーアンテナショップ「カルビープラス」～

カルビー商品は一部、通販やカルビーオンラインショップでの取り扱いはありませんでしたが、スーパーやコンビニなどの小売販売店様での取り扱いが基本でした。しかし、それではお客様との接点が少なく、お客様の声を聞く機会がないということから、直接カルビー商品を販売できる、アンテナショップ事業を展開しました。これはお客様の声を収集し、革新的な商品または事業開発に役立てることとコミュニケーションの向上を実現し、店舗(商品)を通じてのカルビーファンを増やすことを目的としています。

「カルビーの提案する“おいしい”“たのしい”を体感できるショップ」をコンセプトに『カルビープラス』国内11店舗の展開を予定しており、2012年6月現在では、新千歳空港、原宿、東京駅、お台場、京都駅*の5店舗を運営しています。将来的には、アジアにも出店していきたいと考えています。

* カルビープラスとは業態が異なります。



Concept

商品やサービスなどを通して、“一歩進んだ”カルビーを楽しんでいただき、グローバルなカルビーファンを創造



Calbee+ではカルビーの楽しさを3つのゾーン(機能)で構成しています。

1 オリジナル商品を楽しむ 物販

オリジナル商品や地域限定商品などの販売を通じて、カルビーのことをより深く知っていただくきっかけになります。

2 オリジナルテイストを楽しむ イートインコーナー 飲食

普段は食べられない、でき立てアツアツのスイーツをお召し上がりいただけます。

3 カルビーの原料、品質、鮮度を楽しむ コミュニケーション

楽しみながら、カルビーの品質への取り組みや、正しい食の知識をご確認いただけます。

店舗紹介



新千歳空港店
2Fアンテナショップ
2011年12月15日OPEN
4Fショールーム
2011年7月15日OPEN
住所 新千歳空港 国内線ターミナルビル2&4F
営業時間 2F/8:00~20:00
4F/9:30~19:30
店舗内容 2F/物販コーナー+ホットスナック販売(できたてポテトチップス他)
4F/物販コーナー



原宿竹下通り店
2011年12月7日OPEN
住所 東京都渋谷区 神宮前1丁目16-8
営業時間 9:30~20:30
店舗内容 1F/物販コーナー+ホットスナック販売(できたてポテトチップス他)
2F/物販コーナー+イートインコーナー



東京駅(東京おかしランド内)
2012年4月14日OPEN
住所 東京駅一番街
営業時間 9:00~21:00
店舗内容 物販コーナー+ホットスナック販売



ダイバーシティ東京プラザ店
2012年4月19日OPEN
住所 東京都港区東青海1-1-10
ダイバーシティ東京プラザ2F
営業時間 10:00~21:00
店舗内容 物販コーナー+ホットスナック販売+イートインコーナー

お取引先様のために

カルビーグループは、お取引先様と公平かつ公正な取引関係の構築を大前提に、さらなる信頼関係の維持向上に努め、互いに価値を創出できる『共利共盛』の関係を目指します。



お取引先様との良好な関係を構築しています。

公平かつ公正な取引の徹底

カルビーグループでは、お取引先様との公平かつ公正な関係を構築することをグループ行動規範に明記するとともに、「カルビー購買管理規程」を2004年に制定し、適正・円滑な調達を行うことを明文化しています。また、新たに定めた「カルビー購買方針」と「取引ガイドライン」のもと、お取引先様の評価・選定ならびに取引の実施に努め、お取引先様とともに、社会的責任を果たすため、協働して安定供給や、安全・安心な商品の提供に向けて取り組んでいます。

またお取引先様にはカルビーの購買規程が明記された取引契約書をお渡しし、規程を満たし、その内容にご同意いただいた企業様とのみ取引契約を結んでいます。これは国内、海外問わず同条件でお願いしていることであり、その条件を満たせば、海外の企業でもオープンかつ積極的に新規参入の機会を設けています。

CSRに配慮した取引の推進

カルビーグループでは、品質向上や安全・安心を確保するためにサプライチェーン全体での対応を進めています。



サプライチェーン一体となってお客様満足度向上を目指します。

品質向上に向けたお取引先様との連携強化

カルビーグループでは、事業活動に必要な原料や資材を契約農家をはじめとする多数のサプライヤーから購入するほか、商品の販売にあたっては全国の流通・小売事業者様に協力を得ています。事業活動の目的を達成するためには、サプライチェーンを構成するお取引先様との連携は欠かせません。

カルビーグループでは、お取引先様と事業の目的を共有し、サプライチェーン全体で安全・安心で適正な品質の製品を継続的に提供することを目指し、パートナーシップの強化に努めています。

コスト・リダクション&イノベーションへの取り組み

カルビーグループは、経営の基本方針として「コスト・リダクション」と「イノベーション」の2つを成長の二本柱とし、あらゆる面でこの実現を目指しています。お取引先様と協力し、原料に汎用性を持たせ、無駄の削減に取り組まれました。これはどうしても発生してしまうロスや、余剰原料を減らし、生産性を上げることで、コストを削減することを目指しており、お取引先様との連携がなくては成り立ちません。この取り組みは、ただ単にコストを削減するという事ではなく、いかに無理や無駄をなくし、サービスを充実させることで、双方のコスト・リダクションを実現していけるかが重要になります。



サプライヤー様とのミーティング風景

パートナーシップミーティングの実施

カルビーグループでは、日常のお取引のなかでサプライヤー様との情報交換や意見交換の機会を積極的に設けることで相互信頼を深めています。

より一層のイノベーション&コスト・リダクションを協働推進していく上での、よりよいパートナーシップの構築に向けた相互理解の場の提供を目的として、毎年「パートナーシップミーティング」を開催し、カルビーとお取引のあるメーカー様や商社様などにお集まりいただいています。そこではカルビーの

経営方針をはじめ、2010年に定めた購買方針やガイドラインの説明や、お取引先様と協働実現したコスト・リダクション事例の報告などを行っています。

2011年度は原材料購買のお取引先様だけでなく一般購買、システムのサプライヤー、設備関係のサプライヤーまでその規模を拡大し、90社163名のお取引先様にご参加いただきました。



2011年度 Calbee Partnership Meeting

お取引先様専用ホットラインの設置

カルビーグループは、2011年10月、「お取引先様専用ホットライン」を開設し、カルビーグループが原料や資材を調達しているお取引先様からの通報を受け付けています。

カルビーグループの従業員は、購買方針・行動規範に則りお取引先様との関係構築に努めていますが、万が一、優越性、地位を濫用した疑いや行いがあった場合に、その担当者とは別のルートでトップに伝わるようにしています。それを受け、是正措置・予防措置に努めるようにしています。

また、通報者が特定され不利な立場に立たされることのないよう、倫理・リスク管理部が窓口となり、情報を取り扱っています。

開設以来サプライヤー様からの通報は0件です。購買部の原材料・一般・工場設備担当者が、常にサプライヤー様と密にコミュニケーションを取って、信頼されている結果だと受け止め、今後も通報件数0件を継続できるよう、取り組んでいきます。



サプライヤー様と協力し、安定供給の仕組みを構築します。

責任を果たすための取り組み

東日本大震災により、サプライチェーンが分断され、商品を安定して提供することが困難な状況に陥りました。食品製造業として、安定供給の責任を果たすために、緊急事態におけるサプライヤー様との協力体制の構築に取り組んでいます。

また、すべての原材料において納入先が1社しかないものに関しては、現状のお取引先とは離れた地域に、二次サプライヤーを確保しました。二次サプライヤーの選定においても、当社の規格書の条件を満たしていることが条件となっています。

購買基本方針

- Calbeeは、日々の購買取引の決定、ならびに新規取引先の選定については、品質、価格、安定供給の視点、エコならびに環境保全など合理的な方針に基づいて実施します。
- Calbeeは、購買取引において特定の取引先に過度に集中することのないよう、また特定の取引先がCalbeeに対し過度に依存することがないように、適正購入量を保ち、複数の取引先から購入するよう努めます。
- Calbeeは、取引ガイドラインに策定された基準に従い、合理的な方針に基づき、お取引先を選定し、公正な選定のため、購買部門はほかの部門から独立し、客観的に選定評価を実施します。
- Calbeeは原則として、複数の取引先から相見積もりを取得し、競争の確保と公正な取引先選定を実施します。
- Calbeeは、入札または相見積もり等を行った場合、取引先に選定されなかった企業に対し、要請があれば、可能な範囲でその理由を明示します。
- Calbeeは、継続的な取引は基本取引契約書を締結し、契約に基づき実施します。その他単発的な取引等についても、原則として都度文書による購買契約に基づき取引を実施します。
- Calbeeは、取引先に対する当社製品の販売を直接の目的とする取引は行いません。
- Calbeeは、新規取引先の参入を広く海外にも求め、オープンかつ積極的にその機会を設けていきます。

お取引先様のために

お取引先様評価の充実

カルビーでは、2002年にお取引先様の評価基準をまとめた「アセスメント(評価)マニュアル」を定め、以後毎年この基準のもとお取引先様の評価を実施しています。この評価は、原料購売部門の担当者がお取引先様のもとへ赴き、原料規格に適った原料の出荷や工程での衛生管理、異物混入防止策などの実行状況などを3段階評価するもので、評価結果はお取引先様へ通知するとともに、必要に応じて改善をお願いしています。10年以上にわたり評価を繰り返し実施してきたことで、お取引先様の意識も高まり、評価結果も年々向上しています。

2011年度は、品質的な監査とサプライヤー様選定の審査を品質保証本部、購買部それぞれに振り分けて行ったことで、より精度の高いアセスメントが実現できました。

改善事例



合成課レジンホッパーにボロボロになったテープが附着していました。異物混入の原因と成り得ます



テープの貼り替えを行ないました。自主保全時に確認と交換を実施していきます

原料の安定供給に向けた取り組み

ポテトチップス用のじゃがいも原料は畑で生産されるため、その年の気象条件の影響により生産量や品質が変わります。これまでも、じゃがいもの豊作や不作により、原料の過不足が生じました。じゃがいも原料を安定的に確保するために、2011年より北海道の契約農場において、生産者の皆さまと施肥の改善に取り組んでいます。施肥とは、人間でたとえると食事にあたります。植物が健全に育つように、必要で適正な施肥を施し、気象の影響を可能な限り少なくする取り組みです。

この活動のポイントは、①さまざまな特徴を持つ畑1つ1つに適正な施肥を行う、②年によって違う気象に対応した施肥を行う、③植物の生長を観察し、それに必要と考えられる施肥を行う、の3つが挙げられます。この取り組みには、スコットランド農業大学(SAC)の知見と指導を得て、科学的な見地のもと実施しています。

一方、近年、じゃがいもの主産地の北海道では、じゃがいもの作付け面積が減少している傾向が見られます。これは、高齢化・労働者不足という農業の構造的な問題と、じゃがいもが他の主要な作物と比較して労働力を要することが相い

まった結果と考えられます。この問題については、「C-Sup」などのコントラクター収穫の実施と、一般的な生産者の皆様への対応として、収穫中の収穫機上での選別の簡素化による収穫作業の省力化で解決を図っています。

従来のじゃがいもの収穫作業は、収穫機上で生産者の皆様が不良箇所のあるじゃがいもを除く選別を実施し、出荷されていましたが、この選別の工程に多大な労働力と時間を要していました。後者の取り組みは、生産者の皆様が畑で実施していた選別作業を簡素化し、代わってカルビーポテトが貯蔵庫で機械的に選別を実施するものです。2010年より実施し、生産者の皆様からの支持を得つつあり、今後、この方式による仕入を拡大していく予定です。

TOPICS

契約農家との取り組み

安全・安心な商品をお客様へお届けするために、全国の契約農家からじゃがいもを調達しています。調達にあたり、ポテトチップスに適した品種の育種や栽培技術の研究結果を生かして契約農家を支援し続けています。携帯電話を活用しての契約農家への情報提供サービスもはじまっています。

ただ、契約農家の経営規模はさまざまです。皆様と良好なパートナーシップを築くために新しい取引制度の導入を進めています。

北海道で導入した全量取引もその一つです。規模拡大および省力化への意向を受け、契約農家の作業負担を軽減するために圃場での選別作業をやめ、集荷場での集中選別を試みています。

契約農家の声を聞きながら、更なる原料品質の改善・量の確保に取り組んでいきます。

じゃがいも大量収穫システム初公開

カルビーポテトは安定的にじゃがいもを確保するための取り組みとして、2001年にスタートした新じゃがいも収穫システム「C-Sup」を、2011年9月、初めて生産者の皆様に公開しました。これは従来の5~10倍の収穫能力のあるシステムで、これにより、人手と時間の大幅な削減が可能になります。これからはこの「C-Sup」を生産者の皆様に導入していただき、じゃがいもの安定的な確保を実現していきます。



自走式



伴走式

従業員のために

カルビーでは、従業員一人ひとりの成長が、企業の成長につながると考えています。全従業員が、心から誇りを持って働ける職場を実現するために、各種制度の構築やイベントの充実、ダイバーシティの推進に注力して取り組んでいます。



従業員一人ひとりの成長がカルビーの成長です。

人を生かす組織・制度作り

カルビーグループは、自社の人材を育てていくことが企業の重要な役割であると認識しています。そのため中長期ビジョンにおいて「カルビーグループのすべての従業員が、心から誇りをもって働ける職場をめざします。」という目標を掲げ、その達成に取り組んでいます。

これは従業員一人ひとりが満足し、やりがいを持って働き、実行力を兼ね備えた人材へ成長し、その役割を果たすことができる機会を提供し、また、その成果に対して、明確な報酬を約束するというもので、カルビーグループ全体でその環境づくりに取り組んでいます。

中長期ビジョン

- 1 食品業界トップクラスの待遇を目指します。資格制度・属人的な手当を廃止し、パフォーマンスに基づく報酬体系とします。
- 2 ダイバーシティを推進します。(グループ女性管理職比率40%以上へ)
- 3 自ら学び、自ら困難な課題にチャレンジし、自ら育つ、分権化を支える『自立的な実行力』のある人材の育成をめざします。また、この考え方に基づいた人材の採用を行います。
- 4 従業員全員がお互いを尊重しあい、コミュニケーションを深め、一緒に課題解決をめざすカルチャーを醸成します。
- 5 役職者のミッションはパフォーマンスとメンバーの育成とします。
- 6 評価はプロセスではなく、結果を重視し、公平かつ、客観的でデジタルな評価を行います。
- 7 『心』と『身体』の安心・安全を大切にす職場環境をめざします。

従業員のキャリア形成支援

カルビーグループでは新たに人材開発部を立ち上げ、従業員が各々の目標を達成し、企業の社会的責任を果たすためにも、個々の役割・成長に合わせたさまざまなキャリア開発プランを整備し、リーダーとなる人材の育成に力を入れています。

会社から研修という形で学びの場を設けるだけでなく、従業員自らが自分の学びたいことを学べる環境を構築し、自立的な思考力を持った人材に成長するための支援も行っています。

また、成果に対する明確な報酬制度も整えており、プロセスではなく結果を重視した評価をすることで、従業員自らが、結果を出すために何をすればいいかを考えさせる評価制度を導入しています。

カルビーグループの業績や成長に貢献した従業員を賞賛する!「Calbee Award」開催

これまで毎年開催してきた「Calbee Challenge」は、各チームによる成果発表コンテストを当日行い、優秀事例を学び、表彰するという「学習・教育」中心の行事でした。2011年度は、規模や内容をリニューアルし、名称も「Calbee Award」に改め、新緑の京都で盛大に開催しました。メインである1日目は第1部「成果報告会」と第2部「表彰パーティー」の二部構成とし、2日目は希望者を対象に「観光オプションツアー」を催行しました。目的は、①Education(優秀活動事例の学習と共有)、②Celebration(成果を上げた従業員に対する最大限の賞賛)、③Motivation(次年度も成果を上げたい、表彰されたいと思わせる動機づけ)の3点です。

Calbee Awardを通して、カルビーグループ従業員のモチベーション向上と、High-Performer High-Rewardの企業風土の醸成を図り、個人やチームの貢献が会社の成長につながることを期待しています。



最優秀賞受賞の様子



表彰パーティー会場

従業員のために

経営トップと直接対話する仕組み

カルビーでは、経営トップである会長の松本、社長の伊藤が従業員と直接対話する、「タウンホール・ミーティング」を開催しています。全国の工場・営業拠点にトップ自ら出向き、経営方針等を説明し、また、従業員からの質疑に答えています。会長・社長就任以来の恒例行事ですが、2011年度も全国24カ所、夏・冬の2回開催しました。従業員とマネジメントが直接対話できる貴重な機会となりました。

また、会長の松本を塾長、相談役の松尾雅彦を名誉塾長とし、「学ぶことの大切さ」について、塾長たちと手あげ方式で参加した従業員が、所属部門や役職を越えて対話する「松塾」も複数拠点で順に開催されました。



「松塾」で塾長を務める松本（オレンジの服）

2年目となる2011年度は、実施回数10回、延べ172名が自主参加し、積極的な対話をくり広げました。

従業員満足度調査

組織の現状を把握し、課題を解決していくために、従業員満足度調査を行っています。

上場を機に対象を一部グループにも拡大し、また、満足度だけでなく重要度を測定することで、カルビーグループの強み・弱みを再認識し、ただの調査で終わらないよう、その結果・課題を人事制度改革や組織風土改善につなげています。

満足度調査と併行して、従業員自身のキャリアについての希望調査を行っており、個人の希望を聞くことで、ジョブローテーションを行う際の基礎データとしています。



安心して働ける職場を目指しています。

安全衛生管理

従業員が安全にそして健康的に働ける職場環境を構築し維持することは、企業の大切な責任です。カルビーでは法律に基づいた「安全衛生委員会」を定期的に開催し、労働災害の防止や職場環境の改善、心身の健康管理などについても産業医を交えて話し合い、各種施策の決定・実行を行っています。各事業所でリスクアセスメントの継続・普及を行い、災害リスク低減のための取り組みを行いました。また、従業員に対し、定期健康診断の実施と社外機関と契約し、24時間体制のメンタルヘルス相談窓口も設けています。

2011年度安全衛生活動計画

活動方針

- 1 安全な職場環境をつくる**
 - 過去重大労働災害の再発防止策の有効性確認と防止策横展開
 - リスクアセスメントの定着
- 2 安全に対する意識向上**
 - KYT※、ヒヤリハットの推進
過去発生した労災事例のKYT推進・横展開
発生作業に特化したヒヤリハット実施
 - 労災発生原因追求スキルアップ
- 3 衛生的な環境づくり**
 - メンタルヘルスの推進
 - 職場環境管理
劣悪な職場環境改善提案と衛生管理者業務標準化
※危険、予知、トレーニング

【全工場共通課題】＝過去発生した労災の再発防止

- 1 リスクアセスメントの定着**
 - 再発防止策の有効性確認
 - 安全バトロールによる予防
- 2 各工場重点課題取り組み1項目実施**

労働災害発生状況(件)

年度	2008	2009	2010	2011
不休災害	61	43	48	48
休業災害	14	22	20	13

※ 集計対象組織：カルビー、スナックフード・サービス、カルビーポテト

TOPICS

なぜなぜ分析の導入

カルビーでは、「安全衛生活動計画」を立案し、労働災害の防止や職場環境等の改善活動を行ってきたにもかかわらず、労働災害の発生件数は、2008年以降、横ばいで減少していない状況です(約65件程度)。そこで労働災害の削減を目指し、徹底した労働災害の原因究明に着手することにしました。真の原因究明にたどりつくために「なぜなぜ分析」を活用し、発生現場において徹底した「なぜなぜ」をメンバーで行うようにしました。さらに、なぜなぜ分析のスキルを向上させるため、年4回の全社安全衛生委員会において、労働災害発生事例をもとに勉強会を開催しています。このように真の労働災害の発生原因を特定し、その原因を除去していくことにより労働災害を削減する活動を行っています。今後も更なる安全安心な職場環境実現のため、改善活動を継続していきます。

なぜなぜ分析シート



多様性を尊重し、積極的な採用を行っています。

多様な人材の活躍支援

多様な人材がそれぞれの能力を最大限に発揮しながら、安心してイキイキと働ける職場作りに取り組んでいます。

また、積極的に外国人を採用しており、2011年度は4名の外国人の新卒採用を行いました。グローバル企業として、さまざまな国籍の従業員が働ける職場を目指しています。

外国人雇用者数の推移(名)

年度	2009	2010	2011
雇用者	395	408	359

※ 集計対象組織：国内カルビーグループ会社

定年退職者の再雇用制度

定年を迎えた従業員を1年契約で65歳まで再雇用する制度を整えています。制度の適用対象は、満60歳到達時に「①再雇用を希望し、体力・能力と働く意欲がある」「②職場から再雇用の要請がある」という2つの条件に該当する従業員としています。

定年退職者再雇用の推移(名)

年度	2008	2009	2010	2011
再雇用者	23	18	18	20

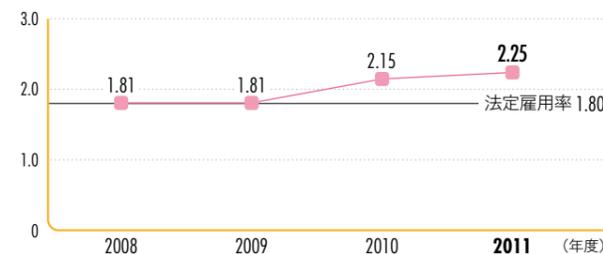
※ 集計対象組織：カルビー

障がい者雇用の推進

カルビーグループでは障がい者が普通に働ける普通の職場を目標に、障がい者の雇用拡大に向けた取り組みを行っています。障がい者の能力に合わせた仕事、施設や設備、勤務場所などに考慮し、最大限能力が発揮できるよう働きやすい職場作りに取り組んでいます。

2011年度の障がい者の雇用率は、法定雇用率を上回る、2.25%となっています。

障がい者雇用率の推移(%)



※ 集計対象組織：カルビー、カルビー・イートーク

TOPICS

カルビー・イートークの取り組み

カルビー・イートーク株式会社は、カルビー株式会社の特例子会社であり、重度障がい者多数雇用事業所で、メンバー23名のうち13名が障がい者です。小規模な会社ですので、いつもアットホームな雰囲気の中で業務を行っています。2011年度の取り組みとして作業の「簡素化」「透明化」「分権化」を推進しました。

新商品の仕事では、治具の開発が要となります。ジョブコーチが、頭を悩ませ作った治具により、できない人ができるように、またできる人はより速く作業ができるようになり、仕事の「簡素化」につながっています。これにより、お土産じゃがりのこのラインはメンバーだけで作業ができるまでに成長しています。

初めての人が見ても、わかりやすいように作業工程を色と表示であらわし、それぞれの作業で使用する備品管理は写真のツールで管理し「透明化」を図っています。

よい製品を作るのはあたりまえのことで、そのでき上がった最終製品をチェックできる社内資格認定制度(毎年更新制)を設け、ペーパーテストと実技テストを行い合格したメンバーには、朝の始業点検、1時間毎の検査・日報への記入の権限が渡され「分権化」をしています。

カウンセラーの資格を持つ、凄腕のジョブコーチに個人面談をお願いして、メンバーの内面からのサポート、毎日の振り返り日誌では、家族や支援者との連携を図っています。まだまだこれからのイートークに厳しいご指導と、暖かいご支援をよろしくお願いいたします。



箱詰め作業



選別作業



検査業務

従業員のために



「ライフ」も「ワーク」もやめられない、とまらない。

ライフワークバランスへの取り組み

従業員が家庭と仕事の両立を図れるよう、育児休業制度や介護休業制度などの各種両立支援策を制定しています。従業員が個々のライフイベントに左右されず活躍できる環境を整えることで、長期にわたって働き続けられる企業を目指しています。

残業削減に向けての取り組みに加え、人事異動に関しては、従業員の意思を尊重する体制を取っており、今後も少子高齢化などの時代の流れに応じた人事制度による支援に取り組むことで、会社の成長と個人の成長を促します。

従業員の育児・介護の支援

カルビーでは、家庭と仕事の両立を支援するために、1992年から、従業員が育児のために利用できる休業制度・短時間勤務制度を運用しています。育児休業者のスムーズな職場復帰を支援する取り組みとして、3カ月に1度の定期面談や、希望者にノートパソコンを貸与するなど、休業中も会社の情報入手できるようにして、職場復帰への不安を取りのぞくようにしています。今後も職場復帰後、さらに活躍できるような環境整備・意識改革に取り組めます。また、勤続1年以上の従業員を対象に、介護を支援する制度も整えています。介護基礎知識セミナーを開催し、制度自体の認知度を上げ、理解を深める活動を行っています。

育児・介護に関する主な制度(2012年3月現在)

制度	適用期間および内容
配偶者出産時休暇	配偶者出産の前6～後8週間以内に連続または分割で5日(有給)
育児休業	子が2歳になる誕生日前日まで
育児短時間勤務	子が小学3年生修了時まで(5時間以上/日)
介護休業	要介護対象者1名につき連続1年以内で会社が認めた期間
介護短時間勤務	要介護者1名につき1年以内(6時間以上/日)

育児・介護休業取得者数(名)

年度	2008	2009	2010	2011
取得者	16	20	33	28

※ 集計対象組織: カルビー

女性管理職(本部長、部長、課長)比率(%)

年度	2008	2009	2010	2011
女性比率	—	5.9	7.9	10.2

※ 集計対象組織: カルビー



ダイバーシティの実現の第一歩として「女性の活躍推進」に取り組んでいます。

ダイバーシティの推進

カルビーでは、2010年4月に部門やグループを超えたメンバー15名で構成された「ダイバーシティ委員会」を設置。まずは従業員の約半数にのぼる「女性」の活躍推進に着目し、さまざまな活動を通して社内の意識改革を行ってまいりました。

私たちが目指すダイバーシティが進んだ姿(ビジョン)とは『どの職域でも、いろんな人が「イキイキ」と働いており、一人ひとりが成長することで、カルビーも成長している状態』です。「女性の活躍推進」というのは、その夢を目指すための通過点の1つでしかありません。でも、それすら実行できないようでは、決して私たちの描くビジョンは実現できません。

初年度は工場所属のメンバーが少なかったという反省を踏まえ、2年目は各工場から1名以上参加してもらい、さらに半数のメンバーが手挙げて入れ替わり、総勢28名のメンバーとなりました。2011年度は女性のキャリア支援を目的とした「キャリア支援部会」、ダイバーシティへの理解・共感獲得を目的とした「コミュニケーション部会」、そして工場での啓発活動を中心に行う「工場部会」という3つの部会で活動を行いました。

カルビーダイバーシティ宣言

掘りだそう、多様性。育てよう、私と **Calbee**。

互いの価値観を認めあい、最大限に活かしあう。

多様性こそ **Calbee** 成長のチカラ。

「ライフ」も「ワーク」もやめられない、とまらない。

カルビーグループダイバーシティのビジョン

どの職域でも、いろんな人が「イキイキ」と働いている

育児・介護などの制約がある人も活躍できる制度・風土

コミュニケーションが活発

一人ひとりに自信とやる気とチャレンジ精神

ライフもワークも充実

ワクワクするやりがいのある毎日!

一人ひとりの成長 ⇒ カルビーの成長

TOPICS

2011年度のダイバーシティ委員会の取り組み

ダイバーシティ委員会では、各地でさまざまな活動を通して、まず全従業員が、ダイバーシティについて知り、その重要性に気づき、自ら実践できる環境づくりに努めています。カルビーグループの持続的発展のためには、一人ひとりが成長し、その力を最大限に活かし、いわば「総力戦!」で挑まねばなりません。



2011年度ダイバーシティ委員会メンバー



ダイバーシティ活動推進ロゴマーク
どんな小さな場面でも、私たち全員が自ら、「ハイッ!」と手を挙げられるようになれば多様性は加速する、という思いが込められています。

活動を一部ご紹介

東日本&西日本事業本部でダイバーシティ委員会が発足

2011年4月に西日本、12月に東日本の地域事業本部内ダイバーシティ委員会が発足しました。カルビーグループ全体のダイバーシティ委員会と連携しながら、それぞれの地域で、より自立的な活動へと発展しています。



西日本事業本部メンバー



東日本事業本部メンバー

ダイバーシティ・フォーラム2011開催

初年度に引き続き、2011年11月に第2回となるフォーラムを開催しました。全国から手挙げて約400名(男:女=4:6)の従業員が集まり、ダイバーシティへの関心の高まりを感じました。ゲストの講演や、他事業所の従業員との交流などを通じて、それぞれが気づきを得たり、刺激を受けたフォーラムとなりました。



自己紹介で場が和みました



松本会長より力強いメッセージ

各地でのミニイベントも活発に

啓発活動の一環として、各地の委員が中心となり、全国でミニイベントを延べ27回開催しました。事業所によって悩みも関心も違うため、テーマもさまざまです。

「育児勤務者交流会」(下妻工場)

お茶をしながらの楽しい雰囲気の中、育児勤務者同士でお互いに悩みや不安を話しあい、交流を深めました。
※対象:育児勤務者



「楽しくイキイキと働くための時間づくり」(中四国支店)

ロールモデルとなる女性の体験談を聞き、時間の使い方の問題点や工夫についてざっくばらんに情報交換しました。
※対象:営業部門勤務者



「グローバルダイバーシティMT」(本社)

外国籍従業員との異文化交流を目的に実施。それぞれの文化を紹介しながら、ダイバーシティを体感しました。
※対象:本社勤務者



熱い想いを共有しました

「明日へつなげる自分のチカラ発見!」講座

カルビーグループでは初の試みとなる、「女性のための」キャリア支援講座を2011年9月に開催しました。自分を見つめ直し、将来のライフプランを描ききっかけづくりの場として、84名の女性従業員が手あがりで集まりました。講師の話や、グループワークを通して、他の従業員との共感と理解を深めるよい機会となりました。

「きらり大賞」受賞!

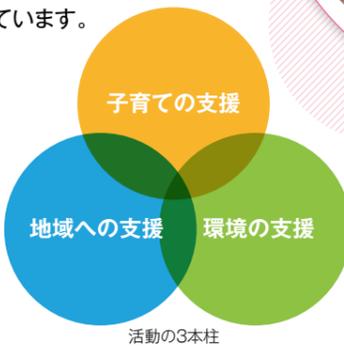
宇都宮市が男女共同参画推進事業者を表彰する「きらり大賞」。2010年度は、カルビーのグループ会社であるスナックフード・サービス(株)が受賞しましたが、2011年度はオイシア(株)が受賞し、2年連続でカルビーグループが受賞するという快挙を成し遂げました。オイシア(株)では、女性従業員の積極的な育成・活躍や、ダイバーシティ推進活動が高く評価されました。



「きらり大賞」受賞式にて

地域社会のために

カルビーグループは、行動規範に「地域社会への貢献」を掲げています。私たちは地球からの恩恵を受けて、お客様からのご支援・ご理解により、事業を継続しています。工場や事業所においても、その地域に暮らす人々との共生が欠かせません。グループメンバーは一人ひとりが地域の一員、全世界の共同社会の一員として、自ら進んで積極的に活動する人になりたいと日々、取り組んでいます。



従業員一人ひとりが積極的に取り組むことがカルビーの社会貢献です。

未来を担う子ども達に正しい「食」の知識を知ってもらい取り組みを推進します。

社会貢献活動方針

カルビーグループ社会貢献

ミッション・ステートメント

私たちカルビーグループ社員は、良き市民として、私たちが生活し、働いている地域社会、さらには全世界の共同社会に貢献します。

グループ体での社会貢献活動

カルビーグループは積極的に社会への責任を果たすために、各事業体に社会貢献委員会を組織し、地域貢献に取り組んでいます。「地域に密着して、汗をかく活動をする」ことを方針に、事業所が立地する地域社会だけでなく、全世界の共同社会に貢献するべく積極的に活動を進めています。社会貢献することの意義を理解し、従業員一人ひとりが積極的に他者に貢献できる人間に成長することは、カルビーグループが人々から愛される企業になるために不可欠なことです。

2011年度は、職場周辺の清掃活動をはじめ、コミュニティの一員として、地域の祭やイベントに積極的に参加し、地域の方々との交流を深めました。これらの活動を通して、地域住民の方々にカルビーのことをご理解いただき、社会の一員として認め続けられるよう、今後もその役割を果たしていきます。



各事業体の委員会メンバー



フードコミュニケーションへの取り組み

人々の健やかな暮らしに貢献するために、身近なお菓子を通して食の正しい知識や楽しさを伝えるフードコミュニケーション活動を全国各地で続けています。カルビーのフードコミュニケーションは4つの推進テーマを掲げ活動しており、それぞれにおいて常に新たなコミュニケーションの創出に取り組んでいます。

なかでもおやつを通じて、次世代を担う子供たちの健やかな暮らしと成長をサポートすることを願い、食育活動支援に注力して取り組んでいます。

フードコミュニケーション 4つの推進テーマ

- 1 楽しいおやつの食べ方提案**
小学校への食育出張授業「カルビー・スナックスクール」を中心に教育支援をしています。
- 2 お菓子コミュニケーション**
親子に向けて店頭や公共施設でのイベントで、カルビーの安全・安心への取り組みやおやつの楽しさを体験してもらいます。
- 3 「自然の恵み」を生かした取り組み**
じゃがいもの栄養研究、学会発表、講演会などを行っています。(P13に一部掲載)
- 4 「安全・安心」「環境」への取り組み**
カルビーのこれらの取り組みを工場見学で紹介しています。

楽しいおやつの食べ方提案

～「カルビー・スナックスクール」を開催～

2003年から小学校へ出張授業「カルビー・スナックスクール」を全国各地で実施しています。子供たちに、身近なおやつを通じて「正しい食習慣」と「自己管理能力」を培っていただくことを目的に、「楽しいおやつの食べ方」(おやつを食べる量・時間・パッケージ表示の見方など)をカルビー従業員が講師となり、分かりやすくお伝えしています。

また、2011年度は496校で「カルビー・スナックスクール」を実施し、開始した2003年から累計で、実施した小学校はのべ3180校、参加した児童・保護者はのべ約24万人になりました。

参加した児童から「これからはおやつを食べるときは、量と時間を守るようにしたい」といった感想や、先生からは「身近なおやつから学習につながるたくさんの要素があることが分かり、勉強になりました」など、多くの声をいただいています。

また、継続率も高く、実施した小学校の52%から翌年に再度お申し込みをいただいております。

お菓子コミュニケーション

～食とスポーツのコラボレーションを推進～

カルビーは「食」も「スポーツ」も、健やかな生活を送るために欠かせないものという考えのもと、スポーツを通じた食育活動にも取り組んでいます。オフィシャルスポンサーを務めるJリーグと共同で、サッカーに食育の要素を加えたイベントを多数実施しており、参加した皆様に食やスポーツに触れることの楽しさ、家族との触れ合い、そして自然素材の大切さを体感していただいています。

2011年11月には福島県のサッカー少年たちにJリーグ公式戦観戦ツアーをプレゼントしました。当日はJリーグOB選手にもゲームに混じっていただきサッカー交流大会を開催しました。



カルビーパーク

サッカー交流大会

TOPICS

カルビー・スナックスクール

プログラム1 はかって!くらべて! おやつの量ゲーム

おやつの量や食べる時間は? ポテトチップスを例に、1日のおやつの目安量や食べる時間について学習します。



プログラム2 ビデオ鑑賞「楽しいおやつの食べ方」

楽しいおやつの食べ方は? アニメや歌を通しておやつの食べ方について理解を深めていただきます。後半はポテトチップスの製造工程と店頭と並ぶまでの流れを知っていただけます。

プログラム3 パッケージ表示の見方を覚えよう!

どんな情報が書かれているの? パッケージにはどんな情報が書かれているのかを知ってもらい、お菓子を選ぶ時子ども達が自分で選択できる力を養います。

出張授業の場合、目的や学習の進捗によってさらに15分～45分追加してプログラムをご提案することもあります。
※ 詳しくは事前打合せのときにご相談します。

商品を作る喜びを地域の子どもたちに伝えています。～お菓子コンテストを実施～

研究開発部に近い宇都宮市清原地区の小学校の生徒から夢のお菓子のアイデアを募集しました。いくつかの作品は子どもたちのスケッチをもとに開発のメンバーが実際のお菓子に再現して入賞作品の表彰式のあと、みんなで試食をしました。モノを作る喜び、商品開発の楽しさを子どもたちに伝えていけたらと思います。



試食タイム

アイデアスケッチ

「安全・安心」「環境」への取り組み

～工場見学を受け入れています～

工場周辺のお客様に工場見学に来ていただき、どんな商品がどのように作っているのかを実際に見てもらうことでカルビーの仕事を理解していただく機会を作っています。工場敷地内で地元の方々や交流するイベントを行っている工場もあります。



広島工場見学の様子

TOPICS

震災支援～東日本大震災へのカルビーグループの対応～

「みちのく未来基金」を3社で設立しました。

ロート製菓株式会社、カゴメ株式会社、カルビー株式会社は、東日本大震災において被災し、両親またはそのどちらかの親をなくされた子ども達の進学を支援するため、3社合同で奨学基金「みちのく未来基金」を設立しました。

これは震災により、親を亡くした子ども達に対し、夢や目標を持ち続けながら成長できる環境整備をサポートし、長期的に復興を支援する取り組みで、子ども達が震災を原因に進学の夢や目標を自ら閉ざさないように、少しでも支援したいという思いから実現した基金です。

震災の被害を風化させないためにも、今後この取り組みを通じて、子ども達の成長を見守り、また、寄付をすることで、たくさんの大きな夢、希望を実現できるということを広く伝え、子ども達が大人になるまで、続けていける仕組みの構築を目指していきます。2012年春は94名の奨学生が給付を受け、新生活をスタートしています。



▶ <http://michinoku-mirai.org/>

東松島市などでボランティア活動をしました

カルビーグループボランティアツアーを東松島市、七ヶ浜町などで継続して実施しています。新入社員も派遣し研修としての活動も実施しました。震災から1年以上を経過した現在もなお、現地では多くの支援を必要としています。従業員が自らの目で見、体を動かして復興支援を考えています。



大野和士さん「こころふれあいコンサート」を被災地で開催しました

世界的な指揮者、大野和士さんは普段コンサートを聴きに行くことが難しい方々にも、気軽に音楽と触れ合う機会を提供したいという思いから、2008年より全国の病院・高齢者施設等でボランティアコンサート「こころふれあいコンサート」を開催しています。



2011年はカルビーと住友生命保険相互会社が協賛し、東日本大震災被災地近郊を含む全4会場で開催しました。プロの迫力ある演奏は聴く人を魅了し元気を与えてくれました。演奏の終わりに観客の皆さまと「ふるさと」を合唱しました。

Jagabeeのパッケージに子供地球基金の子ども達の絵を掲載し、売上げの一部を寄付しています。基金のスタッフは東日本大震災直後から被災地に入り、子どものための絵画ワークショップなどで活躍しています。Jagabeeを通じて、カルビーも活動を支援します。

Jagabee 売上げの一部を子供地球基金に寄付しています



「NPO法人 日本から外科医がいなくなることを憂い行動する会」を支援しています。

外科医の仕事子ども達に知ってもらうイベントに協賛しています。徳島県下の小学校4年生から中学校2年生に、医師の養成課程で用いるシミュレーターや最新の医療機器に触れ、模擬手術を体験してもらいます。子ども達の真剣な表情とセミナー後の満足感あふれた笑顔が印象的です。



地域の一員として イベントに参加しています

青森のねぶた祭、鹿児島のおはら祭などに従業員が参加して、地域の方々と一体になり祭を盛り上げています。青森では次世代に伝統を継承する「子どもねぶた」の支援をしています。



普通救命講習を実施しています

オイシアでは宇都宮市東消防署の指導のもと、普通救命講習を行いました。急病人が出た場合、救急車を待つ間に行う心肺蘇生法とAEDの使い方を学びました。職場での救命のみならず、地域の人々への貢献もできればと思っています。



「カルビーミナミナの森」で森林保護活動をしています

支笏湖近くの国有林を借用し森林保護活動をしています。「カルビーミナミナの森」と名づけ、エゾマツ、ミズナラ、ハルニレなど合計1167本を植樹しました。今後も地域住民の方々と、植樹や手入れをして森を育てていきます。



社会就労センターの皆さまに業務の場を提供しています

オイシアでは社会就労センターいぶき(栃木県)から障がい者の方と指導者の方を迎え、製造ラインの業務に従事していただいています。障がい者自立支援法に基づいた企業内授産という施設外就労を実施しているものです。

滋賀県西寺生産森林組合様と「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を締結しました

森林の名前は「かっぱ恵みの森」と名づけました。「かっぱは、かっぱえびせん命名の由来として、カルビーの象徴となっている。そして、きれいな水に棲むといわれているので森も琵琶湖もかっぱが棲めるくらいきれいにしたい」という想いと、「森によって浄化された地下水など森の恵みに感謝して、より豊かな森の恵みを得られるように活動をしていく」という想いをこの森に込めます。



タイの小学校の食堂補修などの地域貢献をしました

カルビータナワット(タイ)では、従業員から地域貢献のアイデアを募集して検討の上、実施案件を決定しています。2011年はコンケー郡の小学校食堂・給食室改装とマハサラカム県の小学校図書館新設を支援しました。



環境マネジメントの推進

自然の恵みをカタチにしてお客様にお届けしているカルビーグループにとって、環境問題への取り組みは不可欠です。資源の有効活用はもちろん、できる限り自然のカタチに戻して、地球へお返しします。また、CO₂排出量の削減や省資源活動に、グループを挙げて取り組んでいます。



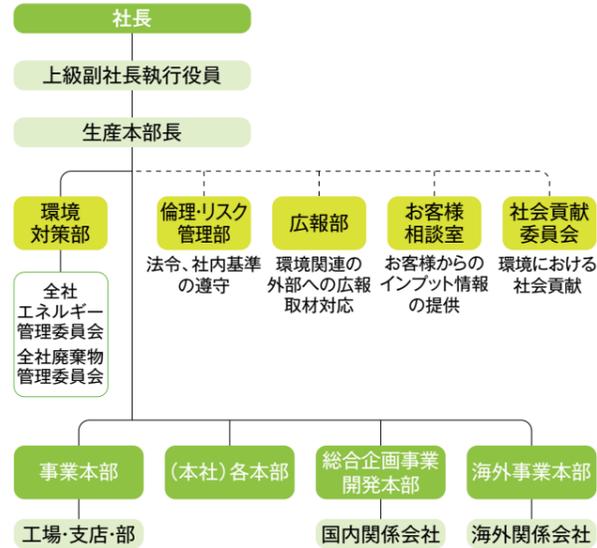
環境対策部を中心に、環境負荷低減に取り組んでいます。

環境マネジメントの推進

カルビーグループは2008年に「CO₂削減プロジェクト」を発足し、CO₂削減のために全社で省エネルギー・省資源を推進しています。この取り組みを強化していくために、2009年度には「環境対策部」を設置し、活動方針を定め、社内各部門と連携しながら「全社エネルギー管理委員会」「全社廃棄物管理委員会」など、活動テーマ別の担当者会議を定期的に開催して計画策定に取り組むなど、PDCAサイクルに沿って活動していくための仕組み作りを進めています。

また、全従業員に向けて環境への意識を啓発する活動も行っており、従業員が丸となって環境目標の実現に向けて取り組む企業風土を確立しています。

環境活動推進体制



行動指針

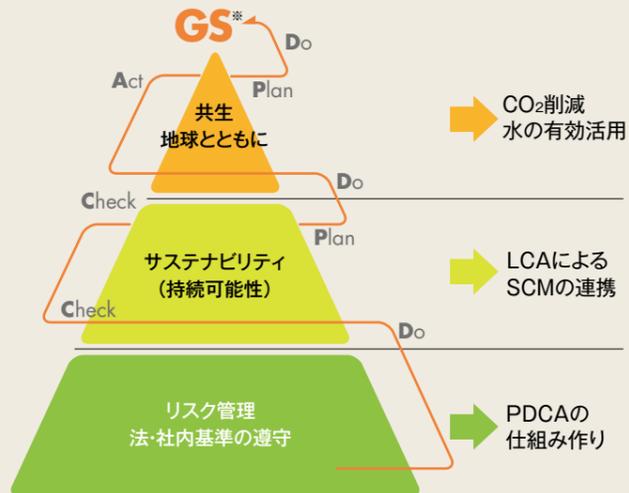
カルビーグループの製品と事業活動の環境への影響を最小限にするため、10プロセスにおいて、天然資源を効率的に使用すること、持続的に管理された再生可能な資源を使用すること、廃棄物ゼロを目指します。また教育啓蒙活動推進を通じて社内外の共有を図っていきます。

そして、私たちの事業領域特有のものとして、次の3つを優先します。

- CO₂**
LCA(ライフサイクルアセスメント)に基づき、原材料調達段階、生産段階、流通販売段階、使用維持段階、廃棄リサイクル段階の各段階に発生するCO₂と各間接部門で発生するCO₂を削減します。
 - 水**
生産段階における洗浄、清掃に使用する水を削減します。
 - 廃棄物**
生産段階、流通販売段階、廃棄リサイクル段階で発生する廃棄物を削減します。
- ①～③の削減に向けて、各プロセスの活動量削減と原単位の適正化を行います。活動量とは、事業活動における環境負荷(投入量、生産物、廃棄物、使用エネルギー、輸送距離等)とします。

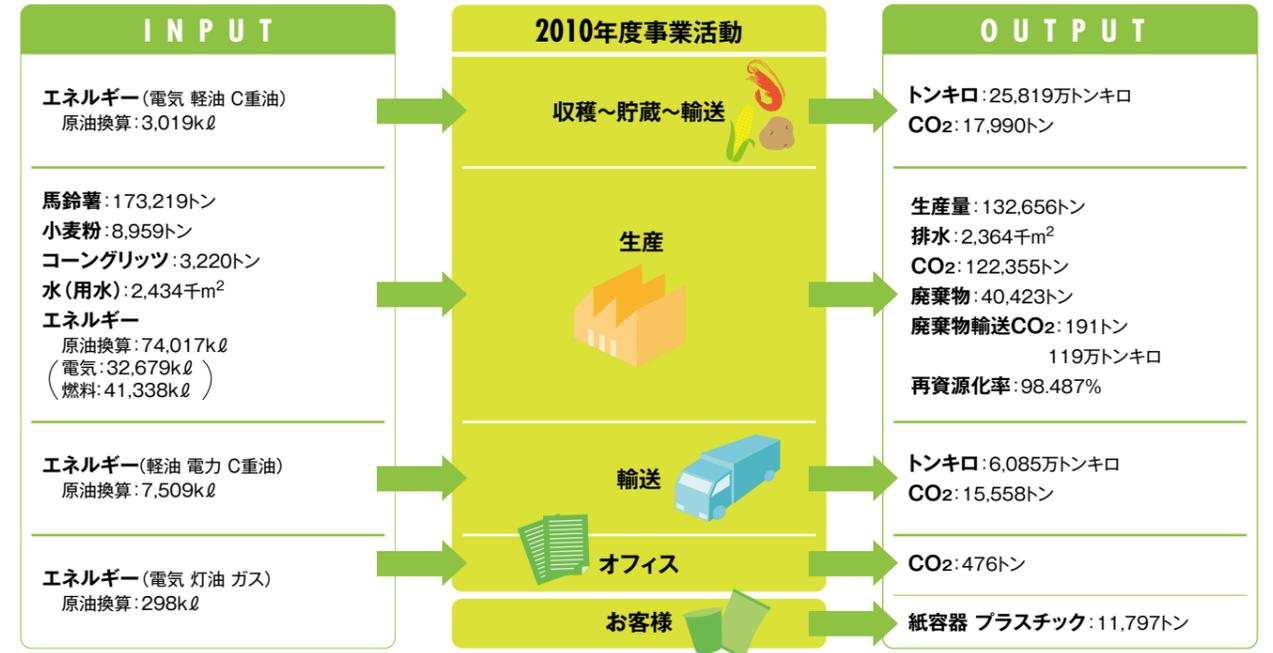
基本理念

私たちに多大な恵みをもたらす地球環境を守るべく、自然の保全・保護に努めます。持続可能な未来のために!



* GS…Global Satisfaction (地球満足)

事業活動と環境負荷の全体像



社内外に向けての環境情報の発信

環境マネジメントの強化に向けて、環境対策部員は社外の勉強会や講演会に出席して知識・ノウハウを高めています。また定期的な担当者会議で法律改正に対応した各工場の取り組みなどを情報共有し、社内報やメール配信で全従業員へ伝えていきます。



環境対策方針と4本柱



環境法規制遵守の状況

カルビーグループは環境関連の各種法令や規制を遵守しています。2011年度は環境に重大な影響を与える事故や法令違反は発生しませんでした。

環境意識の向上への取り組み

カルビーグループ全従業員の環境意識を高めるために、環境対策部が中心となり、2010年4月より「CalbeeGreen通信」を毎月発行し、全従業員に送付しています。現在の地球環境の状況や環境用語の解説、また、カルビーの各グループ会社、工場における環境への取り組みなどを紹介することで、従業員一人ひとりの環境への意識を高めることを目的としています。

また、全社エネルギー管理委員会や全社廃棄物管理委員会では外部講師を招き、情報提供やセミナーを各部の環境担当者に向けて開催しています。「水」についても「排水処理セミナー」などを通じ、水資源の利用に関する意識の強化を進めています。



Calbee Green通信

地球温暖化防止



2011年度は全社で省エネに注力して取り組みました。

CO₂削減の取り組み

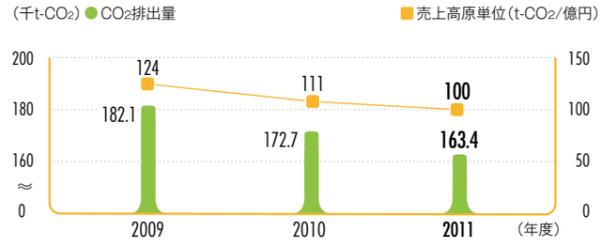
持続可能な社会の実現のために、カルビーグループでは「省エネ・省資源・ムダ取り活動」と「エネルギー革新」を柱に全員参加型の取り組みを続けています。

また、2010年度よりLCAに基づき、各商品の原材料調達段階、生産段階、流通販売段階、使用維持段階、廃棄リサイクル段階の各段階に発生するCO₂を算出し、把握することで各部と連携し、効果的なCO₂排出量の削減を推進しています。

また、2011年度は省エネ対策に積極的に取り組み、電力の見える化や、各工場、オフィスにおける輪番操業の導入などにより、電力のピークカットに取り組んでいます。

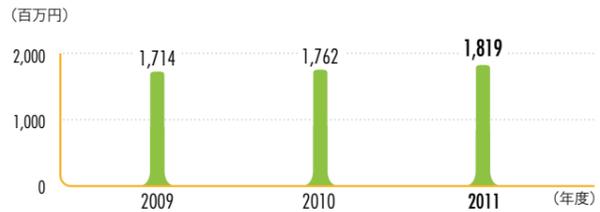
グループ全体で、CO₂の総排出量は2010年度比5%、エネルギー使用量は生産量の減少はありましたが、原油換算ベースで2010年度比10%の削減を達成しました。

CO₂排出量および原単位の推移



※集計対象組織：国内カルビーグループ会社

電力購入費の推移



※集計対象組織：国内カルビーグループ会社



製造ラインの見直しにより、CO₂排出量を削減しています。

生産時のCO₂削減

カルビーグループの各工場では、生産時のCO₂の発生を抑制するために、ラインごとのエネルギー消費量の集計・開示や、省エネ診断の実施、省エネ策の提案募集を通じて、生産

スケジュールの改善などさまざまな取り組みを進め、CO₂排出量の削減につなげています。また、環境対策部が中心となって、各工場の担当者を集めた「全社エネルギー管理委員会」を開催し、各工場のエネルギー使用量削減の取り組みの紹介などを行っています。

2011年度は生産の効率化を図るべく、1つの商品を複数の工場で製造するのではなく、少数の工場に集約させて生産することでエネルギー消費量を削減しました。



エコドライブ、モーダルシフトの推進により、輸送時のCO₂排出量を削減しています。

輸送時のCO₂排出抑制

カルビーグループでは、物流・輸送におけるCO₂の削減のために、エコドライブやモーダルシフトの推進に取り組んでいます。

カルビーは「特定荷主」に指定されており、毎年国へ輸送エネルギーの実績や削減のための計画を報告しています。また、2011年度はカルビーとスナックフード・サービスとの協働で①配送ルートの見直し ②エコドライブによる燃費改善 ③共同配送の拡大の3項目に取り組んでいます。

エコドライブの推進

物流業務を担うグループ会社のスナックフード・サービスでは、物流会社様と協働して燃費改善を推進しています。アイドリングなどドライバーのエコドライブ状況を表示できる車載器を配送車両へ搭載することで、事故の発生、燃料の消費、CO₂の排出を抑制しています。

2011年度までに496台に搭載しており、CO₂削減を実現しています。

エコドライブ車載器搭載台数の推移(台)

年度	2008	2009	2010	2011
エコドライブ車載器搭載車	208	399	458	496

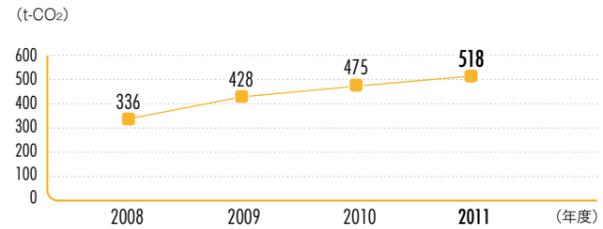
共同配送の拡大

お客様への製品配送においては、ほかの菓子メーカーと共同配送することで、積載率をアップし、配送車両、CO₂排出量の削減を目指しています。

2010年度からジャパンフリトレーとの共同配送に着手、2011年までに北海道、九州、中部、東日本エリアが完了しました。今後の近畿、中四国への拡大により、さらにCO₂削減が期待されます。

2011年度の共同配送によるCO₂削減は、518t-CO₂となりました。

共同配送によるCO₂削減量推移



※集計対象組織：国内カルビーグループ会社



積極的に省エネを推進するべく、さまざまな活動に取り組んでいます。

省エネへの取り組み

オフィスでの取り組み

カルビーでは、生産・物流の現場だけでなく本社をはじめとするオフィス部門でも省エネルギーを推進しています。

各職場の電力使用量やそれに伴うCO₂排出量を社内のデータベースで管理するなど、全従業員に対して省エネルギーへの意識を啓発しています。

2011年度は震災の影響もあり、関東地区のオフィスでは輪番操業やサマータイムを導入し、積極的に省エネ活動に努めました。

丸の内本社オフィス電力量推移(照明・コンセント)



※集計対象組織：国内カルビーグループ会社

工場での取り組み

2011年7月1日の電気事業法第27条を受け、関東地区の各工場・事業所では共同使用制限スキームを申請し、輪番操業が実施されました。また、その他の地域の工場においても、自主的にさまざまな取り組みを行い、カルビーグループ全体で、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。



エアコン吹き出し循環FAN

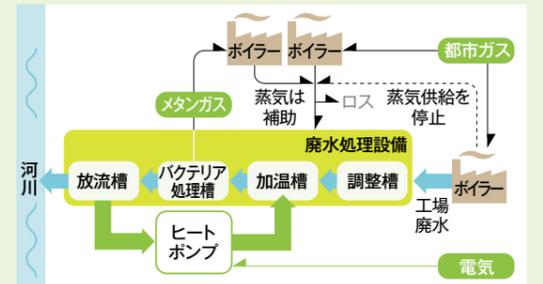
TOPiCS

ヒートポンプの導入

カルビーの新宇都宮工場では、廃水処理設備に「ヒートポンプ」というエネルギー技術を導入し、CO₂を削減する取り組みを実施しました。これは食品工場では全国初となる取り組みで、これまで捨てられていた処理水の未利用熱をヒートポンプで回収し、蒸気に代わって工場廃水を加温することで、ボイラーから供給される蒸気を削減すると同時に蒸気配管の放熱等も削減するというシステムです。省CO₂や省エネとともに河川に放流する処理水の温度が下がり、環境負荷低減にもつながっています。



ヒートポンプ システムフロー



TOPiCS

バイオマスボイラーの導入

カルビーポテト帯広工場では、燃料の一部を従来の重油から、植物由来の木質チップに切り替えることで、CO₂排出量を削減できる木質バイオマスボイラーを2010年3月に導入しました。これにより、2011年度のCO₂排出量を約6,000t削減しました。

この取り組みは「2011年度北海道グリーン・ビジネス認定制度」(環境に配慮した取り組みを自主的に行っている事業所等を登録・認定する制度)の「創意あふれる取組」部門(創意にあふれる、他の事業所の模範となるような優れた取り組みを実施している事業所等を認定)「地球を守る心」分野で認定され、表彰されました。



認定マーク

資源の有効活用



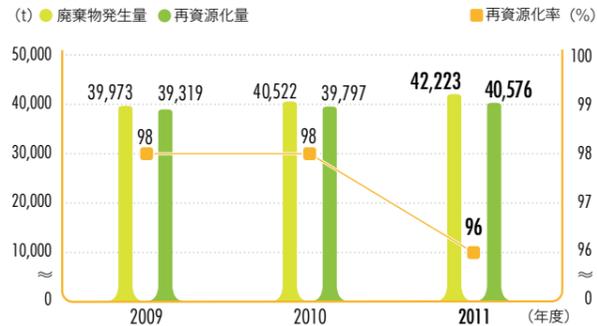
ゼロエミッション・リサイクルの推進により、
廃棄物の削減に取り組んでいます。

廃棄物の発生抑制と再生資源

カルビーグループでは、循環型社会の構築の実現に向けて、限りある資源を永続利用するための取り組みを推進しています。

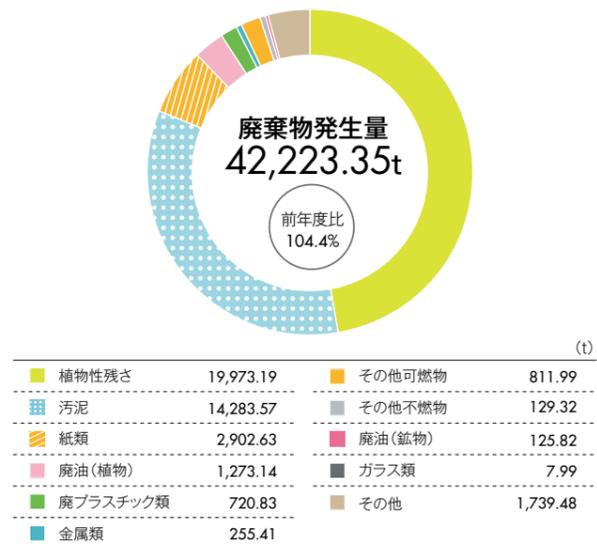
生産工程においては、じゃがいもの皮・ロスなどの植物性残さをはじめとする廃棄物の削減に向けて、各工場で「ゼロエミッションの推進」「リサイクル」を柱に活動しています。分別収集の推進、廃棄物発生量の抑制のほか、リサイクルフローを策定して植物性残さの飼料化や微生物を使った排水の浄化などを進めています。今後さらに、工場でのロス削減活動、植物性残さの有効利用の用途開発などに取り組んでいきます。

廃棄物発生量と再資源化量、再資源化率の推移



※ 集計対象組織：国内カルビーグループ会社

廃棄物発生量の種類別内訳 (2011年度)



※ 集計対象組織：国内カルビーグループ会社

使用後の油の再生処理

フライヤー(揚げ調理器)の清掃時などに出る廃食用油は、専門業者に委託して再生処理しています。再生された油は、飼料製造時の添加油やバイオディーゼル燃料(BDF)として利用されています。

プラスチック類の100%リサイクル

工場では、フィルムやケースなど包装用プラスチック類の廃棄物を専門業者へ委託して、RDF(Refuse Derived Fuel: ゴミ固形燃料)として100%リサイクルしています。RDFは長期間保存でき、高発熱量で燃焼効率も高いという特性を持ち、セメント会社の焼成炉や製紙会社のボイラーなどの補助燃料として活用されています。

廃棄物を補助燃料としてリサイクルする取り組み

下妻工場では、ゼロエミッションに向けて廃棄物を素材としてリサイクルする取り組みを推進しています。包装材などの廃棄物については、RPF(Refuse Paper & Plastic Fuel: 固形燃料)化を行い、製紙会社の補助燃料として供給しています。



水使用量の低減に向け、
リサイクルを推進しています。

水資源の利用

水使用量のさらなる低減に向けて、生産部門の担当者が各工場へ赴いて排水処理の状況を確認。循環利用量を増やすためのアドバイスなどを行って改善を進めています。

2011年度は3Rの考え方に則り、リサイクル率をあげるべく、処理水を再度工場で使えるレベルに戻す取り組みをはじめとしています。

水使用量、排水量およびCOD(化学的酸素要求量)の推移



※ 集計対象組織：国内カルビーグループ会社
※ 09年度は研究開発本部工場は含まず
※ 広島工場西棟は中水のぞく

TOPICS

環境宣言

2012年5月、カルビーでは、新たに「環境宣言」を発表しました。今後はこの環境宣言に則り、グループ丸となって、環境負荷低減に向けて活動を推進していきます。

カルビーグループ 環境宣言

握りだそう、自然の力。



I. 環境に対する基本的な考え方

「握りだそう、自然の力。」
カルビーグループは、このコーポレートメッセージのもと、地球が育んだ自然の恵みをカタチにして、お客様にお届けしています。自然の生命力、可能性を握りだすとともに、地球が育んだ自然の恵みを大切に使い、できる限り自然のカタチに戻して、地球にお返しします。地球のすべての動物、植物と共にくらす一員として、すばらしい自然の力を、未来の世代につなげていきたい、そして、すべてのステークホルダーの皆様から「愛される」企業になりたい、それがカルビーグループの願いです。

II. 環境方針

1. 環境に関する法令、条例等を遵守します。
2. 人々の健康や地球環境に配慮した安全な商品の提供に努めます。
3. 地球温暖化につながるCO2の排出抑制に努めます。
4. 自然の恵みである原料を無駄なく活用するとともに、廃棄物および水使用の削減を目指します。
5. すべての従業員で、環境保全に取り組めます。

TOPICS

電力コックピット

東日本大震災による2011年夏の大幅な電力不足に対応するため、カルビーグループでは節電計画を策定し実施しました。対策の一つに、生産工場の電力使用量を一目で把握できる「電力コックピット」の導入があります。これは、デマンドコントロール装置(一定の使用量を超過そうになると制御をかける)を設置した、関東地区8工場(協力工場含む)の電力使用量を、社内LANをつないだパソコンから誰でも確認できるシステムです。

日々の電力使用量を見える化することで、成果を実感し、モチベーションアップにつなげることを狙いとしています。これにより、2011年度のピーク時は、2010年度のピーク電力値に比べて、約25%削減できました。2012年度は、「電力コックピット」の導入をさらに広げる予定です。

2011年8月12日の電力コックピット



TOPICS

工場廃食用油のバイオ燃料化

環境対策部は、企業活動で発生する廃棄物を埋立・焼却することなく、再利用できる新たな資源に再生する、「資源循環」に取り組んでいます。2011年度再資源化率は96.1%ですが、次のステップとして、再利用資源を可能な限り自社内で使用する、「自社内資源循環」に着手しました。自分で出したごみは自分で責任を持って再利用しよう、という取り組みです。

その一つが、工場廃食用油のバイオ燃料化です。具体的には、カルビー工場廃食用油を原料として軽油代替燃料であるバイオディーゼルに再生し、工場のトラック、フォークリフト、物流パートナー様の製品配送トラックに使用することです。バイオディーゼル燃料(BDF)によるCO2排出量は国際ルールによりカウントされないことになっており、地球環境にもやさしい燃料です。(光合成による植物のCO2吸収により大気中のCO2量は増加しない)

2010年度下期、北海道工業試験場による千歳工場廃食用油の品質分析・バイオディーゼル適合検査からスタート、バイオ燃料製造企業様、物流パートナー様等、関係企業様のご協力のもと、2011年度下期に千歳、下妻工場廃食用油を原料の一部とするバイオディーゼル燃料の販売が開始されました。2012年3月から千歳工場のトラック、フォークリフトで使用を開始、6月からは6社の物流

パートナー様のカルビー製品配送車両の一部に使用が決まりました。また、2社の物流パートナー様は、自社でのバイオディーゼル製造を希望され、プラント導入に向け環境対策部との協働を開始しました。

今後は他工場への展開を目指して諸条件の調査を実施していきます。

下妻工場廃食用油提供先の物流パートナー様BDFプラント



カルビー千歳工場の食油を燃料の一部に再利用した環境にやさしい燃料で走行しています

第三者からのご意見

つねに消費者に いちばん近い会社で あり続けてほしい



全国消費者団体連絡会
事務局長

阿南 久 様

2011年3月11日は、誰にとっても忘れてはならない日となりました。加えてこの日は、奇しくも貴社が上場企業として新たな第一歩を踏み出した日にあたるということで、2011年度は貴社にとって文字どおり「特別な1年」になったのではないのでしょうか。

私たち消費者も東日本大震災からたくさんの教訓を得たわけですが、そんな消費者の一人として貴社の今回の『社会・環境報告書』に関して、3つの観点から私見を述べさせていただきます。

東日本大震災後の貴社の取り組み

カルビーグループのいくつかの生産拠点が、地震によって甚大な被害を受けたにもかかわらず、迅速な復旧によって商品の安定的な生産と供給を早々に再開されたとのこと、グループのパワーがここに結集されたのだと思います。

また、大震災で親を亡くした子どもたちに進学を夢をあきらめてほしくないという趣旨から、貴社を含む3社が合同で「みちのく未来基金」という奨学基金を設立されたことをこの『報告書』で知りました。

子どもたちに最も近い存在であるカルビーらしい、社会貢献の一つの形であろうと感銘を受けた次第です。これからも長期的な視点で、子どもたちの成長や被災地域の復興などに支援を行ってほしいと願っています。

一方、品質保証の面でいうと、2011年10月に社内の組織改革によって品質保証本部を新設し、品質にかかわる責任と権限をここに一元化したことは、商品の品質や安全・安心に関して並々ならぬ決意を示したものと受け取りました。

ただ、安全・安心の点で、放射性物質に対する取り組みがまったく記述されていないのが少し気にかかりました。もちろん、市場に供給する商品はいずれも厳しい審査・検査体制を経て生産されたものだと思います。しかし、いま消費者は食品と放射性物質の関係には敏感になっており、子どもが直接口にする食品が主力の貴社だからこそ、社内におけるその取組についての情報を明確に発信すべきだと思うのです。

公平・公正な取引に向けた取り組み

CRM(Customer Relationship Management)によるお客様満足度の向上とともに、貴社に原料や資材などを供給するサプライヤーの満足度も向上させなければ、貴社の目指す「尊敬され、賞賛され、愛される会社」になることはできません。

また、こうした人々との有機的で機動的なサプライチェーンが構築されなければ、消費者に安全・安心で高品質な商品を迅速に供給することはできないでしょう。そうした点で今回の『報告書』で私の目を引いたのが、2011年10月に開設された「お取引先様専用ホットライン」でした。

もし貴社の担当者に、サプライヤーに対する優越的な地位を濫用した行いが見られた場合、その旨の通報を受け付ける窓口がこれで、そこでの情報は該当の担当者をスルーして、直接トップに伝わる仕組みになっているということにまず驚きました。

長引く不況を背景にして、いわゆる「下請けいじめ」などがまかり通っているのが現状です。これによって、さらに公平で公正な取引が加速していくことを期待します。

多様な人材を活かす取り組み

性別・年齢、さらに国籍や人種などのカベも超えて、多彩な人材を活かしていくことがいま企業に求められています。貴社はこのために、2010年4月に「ダイバーシティ委員会」を設置し、2011年度はその活動が本格化してきたことが、今回の『報告書』からもうかがうことができました。

とはいえ、ダイバーシティ実現の第一歩としている「女性の活躍推進」という項目においてすら、その現状がなかなか見えてきません。たとえば、何人かの女性社員の日常の頑張りをレポートするといった手法で、目に見える形で情報が発信されていたなら、貴社のダイバーシティへの取り組みがリアルタイムに理解できるのではないかと考えます。

以上、消費者という立場から率直な意見を述べさせていただきましたが、ご参考になれば幸いです。

会社概要 (2012年3月現在)

商号	カルビー株式会社 CALBEE, Inc.	関連会社	国内:10社 カルビー食品(株)、カルビーポテト(株)、スナックフード・サービス(株)、ガーデンベーカリー(株)、タワーベーカリー(株)、スターベーカリー(株)、(株)カルナック、オイシア(株)、ジャパンフリトレー(株)、カルビー・イートーク(株)
本社	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-3 丸の内トラストタワー本館22階	海外:8社 カルビーアメリカ(株)／米国、カルビー・タナワット／タイ、カルビーフォーシーズ(株)／香港、カルビーフォーシーズ(汕頭)有限公司／中国、青島カルビー食品有限公司／中国、烟台カルビー商貿有限公司／中国、RCF社／米国、ヘテ・カルビー／韓国	
電話番号	03-5220-6222(代表)	事業本部	北海道、東日本、中日本、西日本
設立	1949年4月30日	自社工場	千歳、新宇都宮、研究開発本部、下妻、各務原、綾部、湖南、広島東棟、広島西棟、鹿児島
代表者	代表取締役会長 兼 CEO 松本 晃 代表取締役社長 兼 COO 伊藤 秀二	協力工場	カルビーポテト帯広工場、北海道フーズ、ポテトフーズ関東工場、オイシア
資本金	112億52百万円	支店	北海道、東日本、東京、中部、近畿、中四国、九州
事業内容	菓子・食品の製造・販売	物流センター	千歳、宇都宮、東松山、各務原、滋賀、広島、鹿児島
売上高	1,632億68百万円(連結) (2012年3月期実績)	研究開発本部	宇都宮
従業員数	2,897人 うち正社員1,494名 (2012年3月31日現在)		

連結売上高



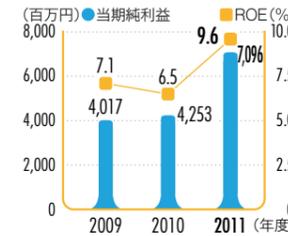
連結営業利益



連結経常利益



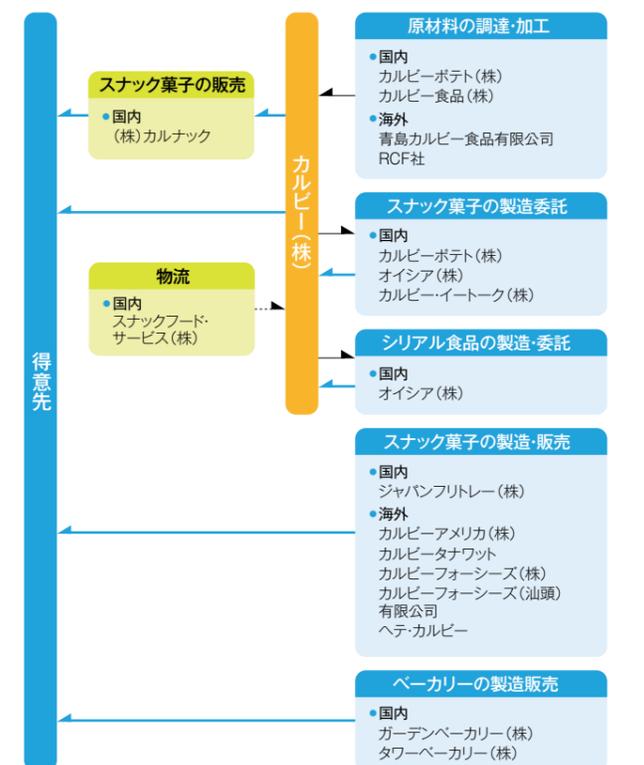
連結当期純利益



連結総資産・連結純資産・自己資本比率



カルビーグループ会社相関図



※1 主要な取引のみ記載しております。
※2 当社は、平成21年6月、PepsiCo, Inc. (その他の関係会社)と戦略的提携契約を締結しております。

カルビーブランド(主要製品)

